

平成28年度

年間事業報告

社会福祉法人 清和会
三浦しらとり園

平成28年度 三浦しらとり園の状況（目次）

I 総括	P. 1
II 利用者の状況	
1 利用者の状況	P. 13
(1) 月別入退所状況	
(2) 入退所の状況	
(3) 年度別経路別入退所の状況	
(4) 市町村別入所者の状況	
(5) 児童相談所（圏域）別入所者の状況	
2 入所者の年齢別・性別等の契約状況	P. 17
(1) 年齢別・性別の状況	
(2) 在所期間の状況	
(3) 障害程度区分の状況	
III 利用者の支援	
1 地域サービス事業の状況	P. 18
(1) 短期入所	
(2) 通所（自立訓練（生活訓練）を含む）の状況	
(3) 日中一時支援事業の状況	
IV 支援の実施状況	
1 施設入所支援の状況	P. 20
(1) 児童課の状況	
(2) 生活第1課の状況	
(3) 生活第2課の状況	
2 生活介護・自立訓練（生活訓練）（日中一時支援事業利用者を含む）の状況	P. 24
(1) 活動内容	
(2) 支援体制	
(3) 支援計画	
(4) 作業収益金	
(5) グループ編成	
3 強度行動障害対策生活支援事業	P. 26
4 心理支援（個別面接、行動観察）の状況	P. 28
5 理学療法の状況	P. 29
6 特定相談支援事業及び障害児相談支援事業の状況	P. 30
7 ボランティアの受け入れ	P. 31
8 オンブズパーソン施設訪問	P. 31
9 三浦しらとり園家族会	P. 32
10 実習生/研修生受け入れ状況	P. 33
(1) 受け入れ件数	
(2) 受け入れ内訳	
11 派遣研修実績	P. 34
(1) 外部派遣研修実績	
(2) 内部研修実績	
12 防災・避難訓練	P. 39
13 洗濯業務の状況	P. 39
14 給食業務の状況	P. 40
(1) 栄養ケア・マネジメントの状況	
(1) 食事の形態別人数	
(2) 食事の種類別人数	
15 医療の状況	P. 41
(1) 利用者検診状況	
(2) 入退院の状況	
(3) 診療所利用状況	

I 総括

1 三浦しらとり園の概略

(1) 県立三浦しらとり園の再整備

当園は、昭和38年1月に精神薄弱児施設「神奈川県立長沢学園」（定員100名）として開設し、昭和58年4月に県立社会福祉施設再整備拡充計画「やまゆり計画」の第1号施設、児童施設40名に成人施設（更生）120名、通所部門15名に地域療育部門、診療所を加えた三浦半島の在宅福祉サービスの拠点施設「神奈川県立三浦しらとり園」として開設されました。

(2) 県立施設の役割の変化

県立施設としての入所機能の純化も進められました。平成7年から13年にかけて、地域の民間入所施設が5か所開設し、そのつど民間施設の運営体制に馴染む利用者計53名を移行させ、その分地域の医療ケアを要する方や行動障害のある重度の障害者を中心に入所が進められました。それに呼応するように平成14年4月には各寮に個室4室を改修整備し、強度行動障害生活支援事業を開始しました。

一方、障害者自立支援法に先駆けて平成10年3月には、地域生活移行の準備の場として「ヴィラしらとり」を落成し、グループホーム等への移行も取り組んでいきました。

そうした中、平成15年11月に「県立社会福祉施設将来展望会議報告書」の中で、当園は「民間に委託されるべき施設」として位置付けられました。

(3) 障害者自立支援法の施行

平成18年に施行された障害者自立支援法により、平成20年には同法に基づく指定障害者支援施設として、施設入所支援94名、生活介護101名、自立訓練（生活訓練）6名、短期入所定員18名のサービス内容としました。

(4) 清和会による指定管理への移行

平成21年から、県において指定管理制度導入の手続きが開始され、所定の選定手続きを踏まえて平成23年4月から清和会が指定管理者として運営することになりました。

この時点での定員は、施設入所支援88名、生活介護95名、自立訓練（生活訓練）6名、短期入所定員24名、知的障害児施設支援40名（うち4名が短期入所）としました。2年間の県職員等の職員派遣期間を経て、平成25年度からは清和会単独での運営となりました。

(5) 指定管理施設としての取組み

指定管理施設として、25年度からの摂食嚥下チームの取組みや、重度、行動障害の方を中心とした短期入所の受入れ数の増加、29年度からはそのノウハウを活かして強度行動障害支援者養成研修に取り組むなど、指定管理施設ならではの取組みも進めてきました。

一方、26年度からは法人の自主事業として「三浦しらとり相談支援事業所」を開

始し、28年4月には指定管理期間中、地域で2か所目の地域生活移行の受け皿となるグループホームを開設するなど、民間らしい事業展開を積極的に進めてきました。

(6) 今後に向けて

平成26年の「県立障害福祉施設等あり方検討委員会報告書」で、当園は民間施設では対応困難な利用者の受入れや民間施設への支援といった役割を引き続き担うため、「指定管理を継続」とされました。33年を経過し、建物の老朽化への対応や今後のニーズ動向に対応した施設のあり方を検討する仕組みを調整していた最中、28年7月に津久井やまゆり園事件が発生し、仕組みは中断したままとなっています。早期の検討体制の再開が望まれます。

2 運営について

(1) 組織・職員等の体制について

平成28年4月1日には、新規採用職員として7名（支援部6名、管理課1名）を新たに加えスタートしました。管理課の1名は庁務作業員で障害者雇用としての採用です。さらに、9月1日には管理課の新採用職員1名と支援部1名が新たに配属されています。また、法人内異動としては、部長職1名を含め5名の職員が異動により当園で勤務しています。

28年度も女子職員の応募と採用が少なく、この傾向は当園に限らないことではありますが、加えて28年度末までに退職を希望した職員が多く、当園だけでなく当法人全体の職員不足という深刻な状況をもたらしています。

その一方で、新採の職員を含め例年と同程度の内容の職員研修を実施し、障害者支援の知識とスキルの向上に努めてきました。内外の実践報告会等へ複数の事例発表を行うなど実績も積み重ねてきています。中でも当園の摂食嚥下チームの取り組みは、県知事表彰である「かながわ福祉みらい賞」を10月に受賞し、その成果を評価していただきました。

中堅・幹部職員向けの研修会も9月と12月の2回実施し、各階層に渡る研修を行い組織の強化を図っています。

(2) 利用者の入退所や短期入所等の状況について

ア 利用者の入所について

入所については児童課（児童）に男子3名・女子2名の入所がありました。地域別では県の中央、厚木、鎌倉・三浦地域児童相談所、また割愛による相模原市のケースもあり、措置（被虐待）が3名、契約が2名となっています。尚、緊急一時保護（児童福祉法33条）として、平成28年度は鎌倉・三浦児童相談所から6名、中央児童相談所から2名、平塚児童相談所、厚木児童相談所から1名ずつの計10名の児童を166日間受入れています。保護理由としては被虐待が1番多く6名となっています。

生活課では、8月に9名が入所。その他に強度行動障害事業対象者の枠組みの中で有期限での入所が1名、県内の児童施設の加齢児の受入れが1名、計11名の入

所者がありました。

イ 利用者の退所について

平成28年度は、児童課（児童・加齢児）では7名の退所がありました。内訳は、児童施設へ移行する児童が1名、成人施設への入所が3名、自宅に戻り、養護高校に通う児童が1名、就労継続支援B型事業所を利用し、在宅生活を始める児童が1名、GHへの移行が2名でした。

生活課では8月に入所した1名がご家族の希望により退所、老人施設への移行が1名、また1名が死去され、3名の退所となりました。

ウ 加齢児の地域移行について

平成24年の児童福祉法の改正により、原則18歳以上の方は障害児入所施設に在籍できなくなり（児童相談所長の判断により20歳の誕生日前までは在籍可能）、平成29年度末までが経過措置期間とされましたが、平成33年度末まで経過措置期間が延長されることが、2月の国の会議において示されました。

当園の加齢児の地域移行については、県の加齢児移行調整会議の中での検討や、児童相談所や福祉事務所等の関係機関と連携した取り組みの中で進めてきた経緯があります。

今年度は、4月時点で5名いた加齢児のうち2名は成人入所施設（うち1施設は県外）への移行が決まりました。他の3名については、成人施設の見学や体験入所等を繰り返し実施しましたが、入所までには至らずに引き続き加齢児対応となっています。

今年度の高等部3年生5人の退所方向については、1名が県外の成人施設に移行、もう1名が在宅復帰ができましたが、残る3名は当園での加齢児として継続入所となり、結果として来年度は6名の加齢児の地域移行を進めていくこととなります。

特に被虐待など養護性が高く、重度児が中心となる加齢児の成人施設への移行は現実的に県内に受入れ先がなく、「地域」とはとても言えない他県の施設に頼らざるを得ない実情ですが、「本人の意思の尊重」の観点からとても大きな課題と言えます。

次年度は高校3年生が3名、さらに2年生が8名と在籍しており、児童の地域移行は県としての施策を含め引き続き今後の重点的な課題となっています。

エ 在宅支援(短期入所・日中一時)の状況について

在宅支援である短期入所（1泊以上の利用）については、今年期の実績が3,412日で、昨年度（平成27年度）の実績3,178日に比べ9%の増加でした。8月から緊急に9名の受入れを実施したにも関わらず増えており、ニーズの増加とともに、各寮の在宅支援に対する理解と、努力の程が伺えます。

利用の理由としては、介護者（家族）の高齢化に伴うレスパイトや、介護者の入院等により、短期入所を利用する方が多くなった事があげられ、今後もこの傾向は続くと思われます。

日中一時（泊を伴わない利用）については、横須賀・三浦圏域での実施事業所が

増加している中で、今年度の実績は1,431件、昨年度（平成27年度）は1,390件で日中一時も増加傾向にあります。

今後も横須賀市を中心に受入体制の充実に努め、横須賀・三浦圏域の中での在宅支援の拠点的な役割を果たしていきます。

(3) 利用者支援について

ア 食事について

食事は、季節に合わせた行事食や選択食、お誕生日リクエストメニュー、バイキングなど楽しみや食べる意欲を持っていただけるような機会を設けています。食事時には、栄養士が寮へ赴き、食事の様子を見たり、利用者から食事の感想等を聞いたりするなどして、食事の改善に活かすよう取り組んでいます。

その他、食事にかかわることについては、主に毎月開催している保健食生活委員会の中で、寮職員と給食担当（施設栄養士と給食委託業者の支店長や現場マネージャー）とで意見交換等を行い、意思疎通を図るようにしています。

食事形態は、主食は4種（米飯・粥・粒粥ゼリー・粥ゼリー）、副食は7種（普通・一口大・きざみ・超きざみ・超きざみソフト・ミキサー・ソフト）あり、利用者の個々の摂食嚥下機能に合わせて提供しています。また、医師の指示による療養食（減塩食・低脂肪食・糖尿食）やアレルギー食、利用者の特性に合わせた嗜好等への個人対応もできる限り行っています。

食事形態や食事支援については、歯科医師、歯科衛生士、理学療法士、管理栄養士から構成される摂食嚥下チームの週1回程度の昼食時の巡回と、月1回チーム会議を開催し、利用者を多方面から評価することで、個々の利用者に合わせて支援に繋げる取り組みを行っています。その取り組みは、栄養ケア・マネジメントのケア計画に反映させ、定期的にモニタリングを行っています。

また、法人内の各施設の食事の質向上を図るため、法人内の栄養士による給食担当者会議を開催しています。

イ 医療体制について

医療については、社会福祉法人湘南福祉協会に業務委託し、湘南病院との連携の中で「三浦しらとり園診療所」の運営を行っています。

週8コマ（1コマは午前または午後）の歯科及び4コマの精神科をはじめ、内科、外科、耳鼻科、脳神経外科、婦人科の診療をおこない、当園の医療を担っています。看護師（准看護師も含む）は5名、歯科衛生士1名、事務1名の体制で、利用者の健康管理については、内科検診、歯科検診、尿検診、耳鼻科検診、眼科検診、乳がん検診、EKG等を実施し、今年度延べ33名の入院者については、2名を除いてはすべて湘南病院で受け入れています。

入院患者は延べ18名が肺炎に罹患し、うち1名については入退院を6度繰り返した後、湘南病院で死去しています。（最終診断名は絞扼性イレウス）

リハビリテーション体制については、20名の利用者について理学療法士を中心

にリハビリテーション体制（加算）をとって、専門的な機能訓練を行っています。

今年度については、6月に湘南病院との業務連絡会を開催し、診療所より歯科診療の実績を報告し意見交換を行いました。また、11月初旬から、精神科医師による寮内回診を開始しました。利用者の寮内生活と行動を観察し、寮職員が医師と直接情報交換をすることで、医療と現場の連携強化に繋がっています。

ウ 摂食嚥下チームの取組について

当園の「摂食嚥下チーム」が、第5回かながわ福祉みらい賞の団体賞を受賞し、県知事から表彰を受けました。この賞は、県内の直接支援業務に携わる若手福祉従事者の顕著な業績に対して贈られるもので、平成24年から開始されました。

今回は摂食嚥下チームの取り組みによって、栄養状態の改善、窒息・誤嚥の減少、食事形態の好転、食事意欲の向上等が見られた6名の利用者に対するチーム支援が評価され、名誉ある受賞となりました。

エ 日中活動(生活介護・自立訓練)について

当園の日中活動は、9つの活動グループに分かれて実施しています。

主に自閉症の利用者を中心として個別課題に取り組むスキルグループ、園外での長・中・短距離の歩行活動を中心とした運動グループ。手工芸や陶芸、教材課題や、園内歩行、マッサージ、リラクゼーションを中心とした園内活動グループがあり、それぞれの利用者の適性を評価して、利用者一人ひとりに適した活動を提供しています。また、理学療法士と連携して日中活動に機能訓練を取り入れています。

オ 強度行動障害専任支援員の活動について

平成28年度当初の事業対象者は2名でしたが、9月より1名の受け入れを行い合計3名となっています。準事業対象者は4名で、それぞれ専門的なスキルに基づく直接支援やカンファレンス等を通してチームで支援する体制を整えています。個別に課題を抱えるケースについても相談ケースという位置付けで支援方法等の相談に応じています。また、在宅の行動障害のある方の地域での生活を支えるため、関係機関と連携しながら家族のレスパイトを含めた必要な支援を、短期利用等の在宅サービスを通じて行っています。

横須賀・三浦地域の施設職員や学校関係者等の支援技術向上を目的とした研修については、外部から講師を招き「公開講座」として自閉症についての基礎講座を2回、応用行動分析について学ぶ研修や、アセスメント方法を学ぶ研修、ASD当事者の方より感覚の違いなどを話していただく講演会や、事例検討会を開催しました。

また、「神奈川県強度行動障害支援人材育成事業」の一環で、同じ事業実施施設の中井やまゆり園と合同で自閉症支援についての研修や、強度行動障害支援者養成研修フォローアップ講習会の開催、見学研修として14名の方を受け入れ、当園の自閉症支援について実際に見ていただき説明を行いました。地域向けの研修には合計450名以上の方に参加いただきました。

行動障害に対する相談について、地域在住で入院中の行動障害のある方について

相談があり、更相判定により強度行動障害生活支援事業対象者として受け入れ入所支援を開始しています。その他、近隣施設での支援困難ケースについて相談を受け、行動観察方法やアセスメントなど専門的な助言や支援方針等の検討を行いました。また、地域在住の短期利用者や日中一時利用者で支援の難しい方についても、支援方法について相談を受け助言を行っています。

カ 心理職の活動について

心理職としては、園内利用者の個別面接や個別支援、行動観察等を行っています。また、SST（ソーシャルスキルトレーニング）、セカンドステップ（いじめ等防止のための教育プログラム）を取り入れた心理支援を行いました。SST（5人・延20回）では、他者とのコミュニケーションが上手くできないことがある児童（小2から小4の男女5名）を対象に、挨拶、相手を傷つけない言葉の使い方、自分の気持ちを言葉で伝える方法、少し嫌なことがあってもすぐに怒らずにいる方法などをテーマとし、ロールプレイで実際にやってみる体験をしてもらいました。セカンドステップ（2人・延8回）では、“問題解決ステップ” “おちつくステップ” の使い方を確認しました。SSTとセカンドステップで学んだ内容は、寮職員に周知し、日々の生活で活用できるように配慮しています。

キ リスクマネジメントについて

リスクマネジメントについては、リスクマネジメント委員会を中心にインシデント報告書の活用を継続し、併せて事故報告及び苦情受付等を行っています。

今年度は1248件のインシデント報告書が提出されています。昨年度の1,250件からは減少傾向にありますが、事故件数42件は、昨年度と同数で、指定管理がスタートした平成23年度以降最小の事故件数となっています。

事故の内容は、薬関連のものが15件と最も多く、誤与薬についてはセットミスやチェック不足など職員の不注意による原因多く見られています。意識を高めるために、8月に与薬動作研修を実施しています。また、ご家族には落葉等が起きた際の対応の流れについて、リスクマネジメント通信を作成し配布しました。

次に多かった事故は骨折と縫合で、ふらつきや転倒によるものが主たる原因でした。転倒の事故については、利用者特性を確実に理解して支援をすることが、安心安全な活動に繋がるため、意識を持って支援するように周知を図っていきます。

苦情について、下半期は4件ありました。ご家族から2件と近隣住民から2件ありました。ご家族からの2件は同じご家族で短期利用の方でした。1つは生活支援上のこと、2つ目は声のポストを利用したの苦情でした。いずれも話し合いの上、ご理解をいただいています。近隣住民からの1件は、職員の車からの騒音に関しての苦情で、匿名で電話によるものでした。匿名のため直接謝罪することはできませんでしたが、職員を特定することが出来たため面接を行い注意をしています。もう1件は、当園前の横断歩道を長沢中学校生徒らが横断中に、当園から出てきた車両が急接近したことを、その家族が「危険である」と、横須賀市指導監査課に電話を

したことで判明しました。防犯カメラで確認したところ当園に出入りしていた他事業所の車両と判明し、その旨を家族に説明しご理解いただくとともに、当該事業所及び指導監査課にも報告しています。

ク 家族との連携について

ご家族に対しては、利用者の個別支援計画について丁寧に説明し様々な要望等を伺い、必要があれば修正していくなどのやりとりを重ねるなかで、支援計画に対する同意を得るよう努めています。また、互いによりよい関わりができるように帰宅や面会、来電などの際には併せて情報交換を行うよう心掛けています。

隔月で開催されている家族会には、毎回30数名のご家族の参加があり、園としての報告や情報発信を行い、行事等の機会も活用しながら連携を図っています。下半期には4回の家族会が開催されています。また、毎年、「家族アンケート（利用者満足度調査）」を実施し、園に対する意見や要望を伺い園全体に周知を図るとともに、改善すべき点は迅速に対応するなど取り組んでいます。

ケ インフルエンザ等感染症について

感染等について、12月中旬に児童課2寮で2名の利用児が感染性胃腸炎に罹患したのを皮切りに、その後3寮、7寮でも発症しましたが、園全体に拡散することはなく、年内に終息しています。

インフルエンザについては、1月末に児童課1寮で5名の利用児が罹患しました。1寮は利用者だけでなく職員も4名発症しましたが、寮閉鎖等の迅速な対応で2月上旬に終息しました。その後は2月の中旬に、2寮と5寮で1人ずつ罹患しましたが、拡大せずに終息しました。

昨年度に神奈川県未病産業に係るモデル事業として、富士フィルムAG-1（発症初期のウイルス検査機）を園内で試用したところ、その効果が発揮されたことから、今年度1月に購入し活用を始めました。園内での取り扱いを定め、医療と連携することで、早期対応に繋がれたと評価しています。

コ 防災対策について

毎月1回の避難訓練を行っていますが、12月には2回の訓練を実施し、計7回の避難訓練を行っています。内容としては、火災避難訓練・地震想定訓練・夜間想定、訓練・通報訓練等を実施しています。2月の夜間訓練では、実践に近い夜の時間帯に実施しています。

地震訓練では津波を想定し、1階利用者が2階に避難する訓練を行っています。

津波の対応としては、当園は標高17メートルであり、地域に最大級の津波（9～10メートル）が発生しても敷地には影響がないとされていますが、想定外の津波対応としては防災行政無線の情報を確認しながら1階の利用者が2階に上がる避難が適切であるとの助言を横須賀市よりいただいています。また今年度の避難訓練においては、各セクションの応援体制に主眼をおいて計画・実施を行っています。

(4) 人権擁護に対する取り組みについて

ア 成年後見人の状況について

今年度については、生活課の利用者については84名中、80名の方が成年後見制度による選任が完了しています。後見人の状況は80名中75名が親族後見で、76%を占めています。

社会福祉士や司法書士、行政書士、弁護士といった第三者後見が選任されている利用者は16名で20%となっています。また、後見人がご家族で高齢等により第三者後見等が必要な方が増えており、親族と第三者が併用して後見人になっているケースも3名います。

イ オンブズパーソン活動について

今年度は計9回来園いただき、利用者との個別面談や、利用者の自治活動である「話そう会」への参加、生活寮の視察、家族との交流等を行っていただいています。

オンブズパーソンとして園に対する助言をいただき、実際には活動日以外にも様々な行事等に参加いただき、積極的に関わっていただいています。

ウ 人権委員会の開催

人権委員会を開催し、人権アンケート部会において当園の支援部職員全員に対して職員自己評価アンケートを8月に実施しました。結果について整理した上で支援の振り返りを行い、ご家族にも職員自己評価アンケートの結果を開示しております。

また、長期利用者及び短期入所利用者のご家族に対するアンケートを実施し、意見等を今後の施設運営や利用者支援に反映させていくこととしています。

さらに、身体拘束部会では、身体拘束ゼロに向けた進行管理を行い、各寮で見直しを行い、身体拘束の低減を図っています。

エ 人権研修の実施

新規採用職員全員を対象に、当園の人権に対する取り組みやマニュアルに関する研修を行うとともに、知的障害福祉協会主催の人権研修にも参加しています。また、全職員を対象に、人権に関わるテーマをDVD研修（「さようならCP」青い芝の会）を行いました。今後は、障害者差別解消法をテーマに園内研修を開催していく予定です。

(5) 研修・実習・ボランティア等の状況について

ア 研修(人材育成)について

園内での研修は新規採用職員を主な対象としたハイムリック法や救急医療研修、感染症、熱中症、摂食嚥下などの研修を丁寧に行いました。

公開基礎講座は、外部講師を招き「自閉症の障害特性と構造化」「子どもの自尊心をはぐくむ」「虐待防止研修」などを行ったほか、昨年度に引き続き強度行動障害研修の一環で中井やまゆり園との合同研修を行いました。その他に法人による理事長研修を4月、8月、12月に行いました。

また今年度から実施している、横須賀市障害関係施設協議会主催の研修（①新人研修、②2～5年目職員研修、③中堅・幹部候補研修、④施設間交流研修）にも積極的に参加しています。

イ 実習生について

実習生については保育士実習は12校より、実人数37名、延べ日数463日の受入れを行い、社会福祉士実習は2校より実人数2名、延日数48日の受入れを行っています。

また神奈川歯科大学学生による研修は、実人数48名、延べ日数48名の受入れを行っています。

ウ ボランティアについて

ボランティアについては平成28年度中に、日中活動・環境整備・縫製・通学付添い・利用者支援・余暇支援など延1,072名の方に活動していただきました。

エ 職場のメンタルヘルスについて

今年度から「ストレスチェック」が義務化されたことに対応して、当園の衛生委員会が主催して、湘南病院院長を講師に迎え、「職場のメンタルヘルス」というテーマで、職員の心のストレス等についての研修を行い、32名の職員が参加しました。

(6) 社会福祉法人清和会の他施設との交流について

4月の清和祭バザー（センター）、7月の鎌倉花火納涼祭バザー（鎌倉清和由比）、8月の清和納涼祭（センター）、10月の清和体育祭（植木小学校）、しらと祭（三浦しらとり園）、1月の清和新春の集い（鎌倉パークホテル）の行事に職員、利用者がともに参加し行事を楽しみました。今年度は天候に恵まれず雨の日に開催した行事が多数ありました。

(7) 相談支援事業所の設置・運営について

相談支援事業所については、平成26年4月より「三浦しらとり相談支援事業所」の名称で、相談支援専門員1名を配置し事業を開始しました。

平成28年4月より相談支援専門員が代わり、前年度同様1名の体制で運営しています。

事業内容は計画相談支援及び障害児相談支援で、平成29年3月末時点で契約者数は120名となっています。（その内、障害児相談は1名）

計画相談以外では横須賀市支援ネットワーク連絡会や障害福祉サービス地域ネットワーク強化事業等へも積極的に参加し、相談支援事業所やサービス事業所との連携を深めています。

平成28年6月より法人内の「鎌倉やまなみ相談支援事業所」と連携し、計画相談契約者の地域性に基づいた移管を進めてきたことで、より本人や家族に寄り添った相

談支援体制が整いつつあります。

サービス等利用計画の書式については、平成28年10月から横須賀市集団講習会の指導に沿った書式を取り入れています。

計画作成及び記録のシステムは「ファイルメーカー」や「エクセル」等を併用することで、より効率的な運用につなげることができています。

(8) その他

ア 防犯対策について

津久井やまゆり園の事件を受けて、9月28日、浦賀警察署生活安全課の署員2名をお招きし、部課長・寮長が参加して防犯に関する研修会を行いました。施設内を見学いただいた後、防犯に関する講話、質疑応答、そしてサスマタや盾を使っての実技指導や通報の方法等の助言を受け、今後の防犯対策を進める上で大変参考になりました。また、防犯マニュアルの作成作業を部課長会を中心に行い、平成29年度の4月には完成する予定となっています。このマニュアルを基に職員への防犯対策の周知と訓練等を行っていくこととなります。

イ コンピューターシステムについて

コンピュータ設定を一括で制御し、使う職員の権限を管理することによってセキュリティを高めるために「アクティブディレクトリー」を導入し、書類や情報の共有のために「ファイルサーバー」と「ファイルメーカーサーバー」を運用しています。

記録システムの総合ソフト「ミスヘルパー」が大幅に改良され、その周知と使い勝手について調査検討し、個別支援計画を表示させながら記録が取れるようになり、検索性の増加と、記録に必要な項目の見出しを追加させました。付属している伝言システムによって、委員会の連絡などが頻繁に行われるようになりました。

日誌等の情報共有等には「ファイルメーカー」を導入し本格稼働させています。具体的には「園内予定表」「日誌」「夜間連絡票」「おしらせ」「インシデント報告書」「事故報告書」「入院報告書」「会場予約」「自動車使用予約」「相談支援事業システム」「重度加算算定用記録」「旅費請求申請システム」のデータベースについて園内LANで共有しており「フェイスシート」「利用者台帳」「健康カード」「地域移行シート」などの開発、作成を行っています。システムプロジェクトチームを中心に研修を行いながら取り組んでおります。

また、玄関には災害時のインフラとしてWi-Fiを設置しています。

ウ 第三者評価の受審について

昨年度に受審した第三者評価（成人）については、今年度10月に実施結果が発効されました。評価結果は全体で95%以上の達成率と高評価で、とくに「一人ひとりに適したサービスの提供」という項目では100%の達成率でした。利用者が本来持っている能力や強み（ストレングス）に着目した支援が行えていると、現場の日々の取り組みが評価された内容となっています。

一方改善を要する点として全体項目の中で2点指摘があり、1点目は職員の自己

評価結果のご家族への開示がないこと、2点目は職員による不法行為（虐待等）が発生した場合の対処法が文書化されていないことでした。この2点に関してはすぐに改善し、11月より実施しています。

エ 計画修繕について

利用者のQOLの向上や安全に配慮した環境を整えるため、シャワー室のユニットバスの設置、廊下等の床材のクッション性のあるものへの変更、障害特性に配慮した遮蔽性の高いブースの設置、トイレの排水工事など、各セクションで必要な修繕箇所をあげ、部課長会議等で園全体での調整や進行管理を行い計画的に修繕を進めました。

オ よこすか障害福祉cafeについて

横須賀市障害関係施設協議会の事業の一環として、昨年度より開催している「よこすか障害福祉cafe」に参加しています。このイベントは障害福祉施設の仕事へのイメージアップと人材募集を目的に、横須賀市内の事業所が一体となり取り組んでいる企画です。上記目的以外にも市内の事業所間の連携・強化にも繋がっています。

今年度は6月18日と9月24日の2回開催され、それぞれ全体で約92名・40名と来場者がありました。

6月の事業所紹介コーナーでは、当園の児童課職員が施設のしごとややりがいについてスピーチを行い、また9月のシンポジウムでは当園家族会よりご家族（利用者の妹）にシンポジストとして、施設職員への励ましと感謝の言葉を熱く語っていただき、いずれも好評をいただきました。

来年度の開催は、5月と10月の2回を予定しています。

カ マイクロバスの購入について

11月1日に29人乗りのマイクロバスを配備しました。今年度に入り、養護学校高等部通学など送迎の必要な児童が増えたため、ワゴン車でピストン送迎を実施していましたが、効率化を図るため導入しました。また、これに伴い非常勤運転員を1名増員しています。

キ 勤怠システムの導入について

昨年6月に退職した職員の親から労基署に時間外勤務の未払いについて訴えがあり、7月に労基署からの勧告及び指導を受けた。勧告内容は労働時間の的確な把握をすることと、未払い分の当該職員への支払いであった。

前者については法人全体として時間外を含む労働時間の把握のため、勤務表や給与計算と連動したシステム化に取組み、今年1月から三浦しらとり園がモデルとしてパソコン連動式のものに更新し、入力等施行を行った。

ク 洗濯業務委託の一部変更について

洗濯業務は昭和58年度から清光会（清光園）に委託していたが、その後の利用者数の減などが反映されない定額方式だった。清和会の指定管理になって以来入札またはプロポーザルによる事業者選定を検討してきたが、来年度に向けて公募を行い3月に選定会議で再度清光園に決定したが、金額は下げられた。また、来年度からタオル類については清和由比に委託することとなった。

II 利用者の状況

1 利用者の状況

(1) 月別入退所状況

ア 児童(40名定員)

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初日在籍	28	30	30	30	31	32	32	32	31	31	31	31
入所	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
退所	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5
月末在籍	30	30	30	31	32	32	32	31	31	31	31	26

イ 成人(88名定員)

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初日在籍	84	84	84	84	84	93	94	93	94	93	93	92
入所	0	0	0	0	9	1	0	1	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0
月末在籍	84	84	84	84	93	94	93	94	93	93	92	92

(2) 入退所の状況

ア 児童

(入所)

(単位:人)

性別	児相	県域					小計	政令・中核・その他					小計	計
		中央	平塚	鎌三	小田原	厚木		横浜	川崎	横須賀	相模原	県外		
男		1				1	2			1			1	3
女				1			1				1		1	2
計		1	0	1	0	1	3	0	0	1	1	0	2	5

(退所)

(単位:人)

性別	児相	県域					小計	政令・中核・その他					小計	計
		中央	平塚	鎌三	小田原	厚木		横浜	川崎	横須賀	相模原	県外		
男		3					3						0	3
女		1	1	1			3				1		1	4
計		4	1	1	0	0	6	0	0	0	1	0	1	7

(一時保護)

(単位:人/日)

性別	児相	県域					小計	政令・中核・その他					小計	計
		中央	平塚	鎌三	小田原	厚木		横浜	川崎	横須賀	相模原	県外		
男	実人員	2	1	3			6						0	6
	延べ日数	14	49	21			84						0	84
女	実人員			3		1	4						0	4
	延べ日数			79		3	82						0	82
計	実人員	2	1	6	0	1	10	0	0	0	0	0	0	10
	延べ日数	14	49	100	0	3	166	0	0	0	0	0	0	166

イ 生活課

(入所)

(単位：人)

性別	行政機関								計
	横須賀市	海老名市	茅ヶ崎市	横浜市	相模原市	藤沢市	県外		
男	1				2	1			4
女		1	1	1	3		1		7
計	1	1	1	1	5	1	1		11

(退所)

(単位：人)

性別	行政機関							計
	横須賀市	鎌倉市	逗子市	三浦市	葉山町	相模原市	川崎市	
男						1		1
女	1						1	2
計	1	0	0	0	0	1	1	3

(知的障害者援護措置)

(単位：人/日)

性別	児相	県域					政令・中核・その他						計	
		中央	鎌三	小田原	平塚	厚木	小計	横浜	川崎	横須賀	相模原	県外		小計
男	実人員												0	0
	延べ日数												0	0
女	実人員												0	0
	延べ日数												0	0
計	実人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延べ日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) 年度別経路別入退所の状況

ア 入所

(単位：人)

経路	23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
	児童	成人										
在宅(学齢)	3		5		2	1	5		1			
在宅(無職)												
在宅(作業所)												
在宅(就労)												
在宅(デｲフゝゐス)												
通所施設												
入所施設	1	3	1		1	4	2		3	1		9
ケアホーム												
グループホーム												
病院							1					1
その他												
計	4	3	6	0	3	5	8	0	4	1	0	10

イ 退所

(単位：人)

経路	23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
	児童	成人										
在宅 (学齢)	1		3	1			1					
在宅 (無職)					1				1			
在宅 (作業所)												
在宅 (就労)					1							
在宅 (デｲフﾞｰｽ)												
通所施設												
入所施設	5	1	1		4		2		2			
ケアホーム												
グループ ホーム	1				2		2		3		1	
老人ホーム				2		2						
病院						1						
その他		1		1		2						
計	7	2	4	4	8	5	5	0	6	0	1	0

(4) 市町村別入所者の状況

ア 市町村別入所状況(児童)

(単位：人)

	市町村													政令・中核・その他						合計	
	鎌倉市	三浦市	逗子市	葉山町	藤沢市	大和市	茅ヶ崎市	座間市	厚木市	伊勢原市	二宮町	平塚市	小計	横浜市	川崎市	横須賀市	相模原市	県外	小計		
内訳	男	1	0	0	0	2	0	2	1	1	0	0	0	7	1	0	4	0	2	7	14
	女	1	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0	1	7	0	0	5	0	0	5	12
計	2	0	1	0	3	1	3	1	2	0	0	1	14	1	0	9	0	2	12	26	

イ 市町村別入所状況(成人)

(単位：人)

	市町村									政令・中核・その他						合計	
	鎌倉市	三浦市	逗子市	葉山町	藤沢市	茅ヶ崎市	海老名市	湯河原町	小計	横浜市	川崎市	横須賀市	相模原市	県外	小計		
内訳	男	1	4	2	2	1	0	0	1	11	3	3	32	1	1	40	51
	女	3	6	2	1	1	1	1	0	15	4	2	17	3	0	26	41
計	4	10	4	3	2	1	1	1	26	7	5	49	4	1	66	92	

(5) 児童相談所(圏域)別入所者の状況

ア 児童相談所別状況(児童)

(単位:人)

		児童相談所別						政令・中核・その他						合計
		中央	平塚	鎌三	小田原	厚木	小計	横浜 市	川崎 市	横須賀 市	相模原 市	県外	小計	
内訳	男	5	0	1	0	2	8	0	0	6	0	0	6	14
	女	2	3	0	1	1	7	0	0	5	0	0	5	12
計		7	3	1	1	3	15	0	0	11	0	0	11	26

イ 圏域別状況(成人)

(単位:人)

		障害保健福祉圏域別						政令・中核・その他						合計
		横須賀三浦	湘南東	湘南西	県央	県西	小計	横浜 市	川崎 市	横須賀 市	相模原 市	県外	小計	
内訳	男	9	1	0	0	1	11	3	3	32	2	1	40	51
	女	12	2	0	1	0	15	4	2	17	3	0	26	41
計		21	3	0	1	1	26	7	5	49	4	1	66	92

2 入所者の年齢別・性別等の契約状況

(1) 年齢別・性別の状況

ア 児童課

(単位：人)

性別 \ 年齢	～6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19以上	計
男	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	2	3	2	3	14
女	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	6	0	1	0	12
計	0	0	1	2	1	0	1	3	0	1	8	3	3	3	26

	男	女	全体
平均年齢	19歳2月	14歳10月	17歳2月
最年少	9歳6月	8歳7月	
最高齢	40歳1月	18歳6月	

イ 生活課

(単位：人)

性別 \ 年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	5	5	20	13	7	1	51
女	0	2	6	12	16	3	2	41
計	0	7	11	32	29	10	3	92

	男	女	全体
平均年齢	48歳4月	49歳4月	48歳9月
最年少	21歳9月	26歳6月	
最高齢	75歳6月	72歳1月	

(2) 在所期間の状況

ア 児童課

(単位：人)

性別 \ 期間	～0	1～2	3～4	5～9	10～14	15～	計	平均在所期間
男	3	1	4	2	1	3	14	5年9月
女		2	7	3	0	0	12	7年6月
計	3	3	11	5	1	3	26	3年9月

イ 生活課

(単位：人)

性別 \ 期間	～0	1～2	3～4	5～9	10～14	15～	計	平均在所期間
男	4	1	3	3	4	36	51	19年10月
女	6	0	2	0	7	26	41	20年2月
計	10	1	5	3	11	62	92	19年6月

(3) 障害支援区分の状況

ア 児童課

(単位：人)

性別 \ 障害区分	6	5	4	3	2	1	計	平均障害支援区分
男	3	0	0	0	0	0	3	6.00
女	0	0	0	0	0	0	0	0.00
計	3	0	0	0	0	0	3	6.00

※ 措置児童で認定区分審査を受けていない児童を除く

イ 生活課

(単位：人)

性別 \ 障害区分	6	5	4	3	2	1	計	平均障害支援区分
男	39	11	1	0	0	0	51	5.75
女	37	3	0	0	1	0	41	5.83
計	76	14	1	0	1	0	92	5.78

Ⅲ 利用者の支援

1 地域サービス事業の状況

(1) 短期入所

ア 契約者数

(ア) 児童

(単位：人)

性別	横須賀市	鎌倉市	逗子市	三浦市	葉山町	藤沢市	その他	計
男	15	1	2	4	0	0	0	22
女	16	1	3	0	0	1	0	21
計	31	2	5	4	0	1	0	43

(イ) 成人

(単位：人)

性別	横須賀市	鎌倉市	逗子市	三浦市	葉山町	藤沢市	その他	計
男	42	4	3	7	1	2	1	60
女	30	1	4	6	1	0	0	42
計	72	5	7	13	2	2	1	102

イ 短期入所の状況

(ア) 児童

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	実人員	6	5	7	8	6	7	7	9	5	3	6	9	78
	延件数	7	5	7	9	6	11	9	11	5	3	7	13	93
	延日数	17	10	14	23	32	23	21	24	27	8	16	29	244
女	実人員	1	3	5	4	6	4	3	3	2	4	4	4	43
	延件数	1	4	6	6	10	5	4	4	3	4	4	4	55
	延日数	2	8	14	13	20	11	8	8	6	8	8	18	124
計	実人員	7	8	12	12	12	11	10	12	7	7	10	13	121
	延件数	8	9	13	15	16	16	13	15	8	7	11	17	148
	延日数	19	18	28	36	52	34	29	32	33	16	24	47	368

*生活課利用を含む

(イ) 成人

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	実人員	26	29	28	33	30	31	33	32	31	33	31	35	372
	延件数	42	45	51	56	55	47	52	48	45	48	45	56	590
	延日数	133	158	161	173	159	152	157	150	141	139	134	159	1816
女	実人員	20	24	19	19	20	19	23	19	19	20	16	20	238
	延件数	35	38	36	37	39	32	39	37	34	32	28	37	424
	延日数	99	109	105	109	111	92	115	104	99	101	83	101	1228
計	実人員	46	53	47	52	50	50	56	51	50	53	47	55	610
	延件数	77	83	87	93	94	79	91	85	79	80	73	93	1014
	延日数	232	267	266	282	270	244	272	254	240	240	217	260	3044

*児童課利用を含む

(2) 通所(自立訓練(生活訓練)を含む)の状況

13名の利用者が、月曜日から金曜日までの毎日家族やヘルパーの送迎で通所しています。
年度途中に2名の退所者があり、平成29年3月末時点で11名の在籍です。

ア 契約者数の状況

(単位：人)

性別	横須賀市	鎌倉市	逗子市	三浦市	葉山町	藤沢市	その他	計
男	8(0)	0	0	0	0(0)	0	0	8(0)
女	3(0)	0	0	0	0	0	0	3(0)
計	11(0)	0	0	0	0(0)	0	0	11(0)

()は、自立訓練(生活訓練)で外教

イ 利用実績

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	実人員	10 (0)	10 (0)	10 (0)	10 (0)	9 (0)	9 (0)	8 (0)	8 (0)	8 (0)	8 (0)	8 (0)	8 (0)	106 (0)
	延日数	172 (0)	163 (0)	198 (0)	168 (0)	156 (0)	176 (0)	151 (0)	150 (0)	144 (0)	133 (0)	143 (0)	160 (0)	1914 (0)
女	実人員	3 (0)	36 (0)											
	延日数	56 (0)	52 (0)	65 (0)	60 (0)	51 (0)	53 (0)	58 (0)	60 (0)	54 (0)	53 (0)	60 (0)	62 (0)	684 (0)
計	実人員	13 (0)	13 (0)	13 (0)	13 (0)	12 (0)	12 (0)	11 (0)	11 (0)	11 (0)	11 (0)	11 (0)	11 (0)	142 (0)
	延日数	228 (0)	215 (0)	263 (0)	228 (0)	207 (0)	229 (0)	209 (0)	210 (0)	198 (0)	186 (0)	203 (0)	222 (0)	2598 (0)

()は、自立訓練(生活訓練)で外教

(3) 日中一時支援事業の状況

ア 児童

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	実人員	8	10	6	9	9	9	9	10	5	4	6	7	92
	件数	29	32	13	16	14	14	15	15	7	12	11	16	194
女	実人員	7	7	7	7	6	7	8	8	7	8	8	9	89
	件数	28	23	23	29	19	23	19	23	23	22	23	21	276
計	実人員	15	17	13	16	15	16	17	18	12	12	14	16	181
	件数	57	55	36	45	33	37	34	38	30	34	34	37	470

*生活課利用を含む

イ 成人

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	実人員	14	13	13	13	14	14	14	12	16	15	14	16	168
	件数	40	43	40	48	48	44	46	42	45	43	43	53	535
女	実人員	10	9	9	13	11	13	10	11	10	12	10	13	131
	件数	34	34	31	41	41	38	33	34	33	38	32	37	426
計	実人員	24	22	22	26	25	27	24	23	26	27	24	29	299
	件数	74	77	71	89	89	82	79	76	78	81	75	90	961

*児童課利用を含む

IV 支援の実施状況

1 施設入所支援の状況

(1) 児童課の状況

ア 1寮(児童男子寮)

□利用者の概況

1 寮は小学3年生から高校3年生まで12名の児童が近隣の小中学校の特別支援級や養護学校に通い、18歳以上の加齢児3名の合計15名の利用者が共に生活しています。

□主な取り組み

加齢児3名の地域移行については、施設見学、短期入所等を実施していますが満床等の理由で入所には至っていません。県外への入所も視野に入れ関係機関と連携して取り組んでいます。高等部3年の3名について、1名は県外への施設入所が決まり3月30日に退所しています。他2名については、移行先が決まっています。

野比小4年生が、1月より全日登下校ともに単独通学となりました。本人も自信がついたようで生活面でも成長が見られます。2月には園内実践報告で発表し、本人も参加しました。

環境面ではシャワー室設備とトイレ(床・便器)や学用品倉庫のドアなど老朽が激しい部分の修繕を行っています。

次年度に向けて利用者の状況を考慮した上で大幅な居室変更を行いました。また、利用者支援については寮職員だけでなく心理職等を交えてチームで取り組んでいます。

□課題

加齢児3名と高等部を卒業した2名、計5名の地域移行が大きな課題です。引き続き、関係機関と連携しながら他施設の見学、短期入所利用等を実施していきます。

個別対応が必要なケースが多く、今後も専門スタッフと連携しながら個別支援に取り組んでいきます。家族に「会いたい」という思いを汲み取り、ご家族との繋がりを行事や長期休みに実施できるよう各関係機関と連携していきます。

イ 2寮(児童女子寮)

□利用者の概況

児童課2寮は現在、小学校2年生から高校3年生まで15名の児童が近隣の小中学校の特別支援級や養護学校に通学し、18歳以上の加齢児1名と合わせ、16名の利用者が共に生活しています。

□主な取り組み

(退所に向けた取り組み)

今年度1名いた23歳の加齢児については、神奈川県有加齢児移行調整会議の取り組みの中で入所のエントリーをし、日中一時利用等の体験を経て、3月中旬に県立入所施設へ移行し、退所となりました。

また高等部3年の児童1名について、卒業後の家庭引取りを再検討し、ご家族や関係機関と協議しました。在宅生活のイメージを掴むため、帰宅訓練や日中活動(就労継続B型事業所)への実習体験を経て、3月下旬に退所し在宅復帰しました。

特別支援級の中学3年1名の児童について、家庭引取りに向けて関係機関と連携し、在宅生活を支えるサービスや当園での短期入所など社会資源の利用の見通しがついたため、3月下旬に退所し在宅復帰となりました。

小学校支援級4年の児童については、相模原市のケースで、市内の児童入所施設の空きが出たため見学、体験利用を経て、3月下旬に退所し措置変更となりました。

高等部3年の児童もう1名について、入所施設への移行を目指しましたが、どの施設も満床で、受け入れ先が見つからず4月以降、当面加齢児対応となりました。

(寮生活での取り組み)

長期休みには、映画外出、ヴィラの利用、栄養士の指導による調理実習、映画鑑賞会、昼食外出、誕生日外出など、余暇支援を行いました。

2月より寮入口を7時45分～16時(当面は登校日に限る)まで解錠し、日常的な挨拶の習慣が身につくように支援しています。寮入口に解錠時間と挨拶を促すポスターを掲示し促しています。利用者の不安定な様子や特性によっては施錠することとしています。

□課題□

加齢児1名の地域移行が課題です。引き続き、関係機関と連携しながら他施設の見学、短期入所利用等を実施していき、地域移行を目指します。

(2) 生活第1課の状況

生活第一課は高齢・病弱な利用者が多く、当園内の診療所、湘南病院本院との連携が欠かせません。しかし、当園の設備は高齢・病弱利用者には十分ではなく、より医療的ケアが必要な方を中心に希望者を募って地域生活移行を進めています。

中でも4月と8月に横須賀市高齢施設協議会に出向き、当園の説明を行ったことから、これまでの受け入れ高齢者施設に加え、新たに数か所の高齢者施設が移行先として拡がるきっかけが整いつつあります。

ア 5寮(成人男性寮)

□利用者の概況

現在17名の利用者が生活されています。

今期は、高熱で入院となる利用者が2名いました。また悪性腫瘍の切除手術で入院となる利用者が1名おり、合計3回の手術入院を行いました。その他に腸閉塞になった利用者も1名おり、診療所・湘南病院と連携し対応を図りました。高齢・病弱な利用者が多いため、食事、排泄、バイタルチェック等の身体状況の変化を観察し、日々の体調管理につなげています。

□主な取り組み

平成27年度に大浴場の脱衣場、寮のデイルーム、寮内の廊下、寮内浴室の脱衣場をクッションマットに張り替えたことで転倒時の緩和が図れています。引き続き寮内環境の改善に努めています。

また、食事の楽しみに焦点をあて、加齢や疾病、入院等で摂食嚥下能力が低下した利用者に対して、「摂食嚥下チーム」と連携し、口腔ケアやリハビリテーション、食形態の工夫等により、美味しく、そして安全に食事を召し上がっていただく事に取り組んでいます。また、積極的に嚥下機能改善に取り組み「摂食嚥下チーム」と相談のうえ摂食嚥下検査で改善が見込まれた利用者の食事形態の見直しに留意し取り組んでいます。

□課題

高齢・病弱な利用者が多い為、突然の通院・入院の対応を診療所・湘南病院と連携を図り体調管理に努めていきます。

低床ベッド3台の購入、移動型リフトの修理などを実施しましたが、引き続き、利用者が安心安全に心地良い生活が送れるよう、専門職と連携した支援を行っていきます。

イ 6寮(成人女性寮)

□利用者の概況

現在は高齢の方や、身体的に機能低下がみられる利用者15名が生活しています。起床支援から始まり食事、トイレ、入浴と常に介助を必要としています。また、当園の設備では介護が困難となった利用者の特別養護老人ホームに移行した利用者が1名、入退院を繰り返していた利用者1名が入院中に死亡され、現在は13名となっています。

□主な取り組み

ほとんどの利用者が常に転倒のリスクがあり、歩行介助を必要としています。理学療法士の助言のもと、利用者にあった支援を行っています。また、嚥下機能の低下がみられる利用者が半数を占めており、医療機関や栄養士との連携が欠かせず、変化が見られた際は迅速な対応を行い支援に努めています。

トイレについては、トイレ内の空間を上手く活用し、手すりを固定されているものから跳ね上げ式に変更することによって、転倒のリスクが軽減できるよう改善しています。夜間のベッド柵については、引き続き安全を第一に検討を行い状況に応じて開放に努めています。

家族との連携を大切にし、日ごろの体調面の報告や、日常生活等の報告を行い関係を密にしています。

□課題

今年度は立ち上がり補助リフトや低床ベッドの購入など行いましたが、引き続き利用者の安心安全を第一に環境を整えていくとともに、心地良い生活が送れるよう、専門職と連携した支援を行っていきます。

(3) 生活第二課の状況

ア 3寮(成人男性寮)

□利用者の概況

10月に新規利用者を1名受け入れ、現在17名の利用者が生活されています。園内を単独で移動されている方や常に転倒のリスクを抱えている方、また、嚥下の機能が低下されている方や異食傾向の方、自閉的傾向の方など、様々な特性を持った利用者が在籍しています。

□主な取り組み

日々の生活のなかでは余暇の充実、特に外出には力を入れています。下半期は利用者のニーズにより上半期に引き続き箱根日帰り温泉旅行には3回、延べ6名外出しました。ほかには野毛山動物園への外出、昼食外出やドライブなども実施しました。夏場の海辺で膝まで海に入り楽しんでいた光景が印象的でした。安心安全を念頭に様々な体験を通して、張りのある生活を送れることを目指しています。

一方で、転倒のリスクを抱えた利用者が数名います。今期一部居室の改修工事を実施して万が一の転倒に備えています。

長年培ってきたチーム支援を基盤として利用者一人ひとりが豊かな生活を送れるよう支援をしています。家族会の後の寮職員と家族との情報交換会も長年に渡り継続をしています。

□課題

加齢に伴い様々な疾病などを抱えている利用者が増えてきました。1月には肺炎による長期入院ののち、摂食嚥下機能が低下した利用者を復帰させ、集中的に機能改善に取り組むなど、診療所や摂食嚥下チームなどの専門職と連携をして健康で豊かな生活が過ごせるように努めてまいります。

イ 7寮(成人男性寮)

□利用者の概況

現在、強度行動障害対策事業の対象者2名を含む16名の方が生活されています。利用者の方の障害状況としては、重度の自閉症及び行動障害を呈する方が中心で、障害支援区分の内訳としては、区分5の方が1名で、他は全て区分6の方となっています。

□主な取り組み

人権擁護の推進といった課題に対しては、寮会議などで、人権侵害や虐待関係の情報についての情報発信に加え、開かれた寮を目指し積極的にご家族や外部の方にも寮に入ってくださいました。現在、身体拘束対象者は3名ですが、引き続き環境面での調整及び支援方法の見直しにより早期に解除できるよう進めています。

生活の質の向上を目的に、寮懇談会での家族からの意見をフィードバックし、可能な限り日々の支援に反映しています。また、寮内及び利用者の方の居室に数ヶ所温湿度計を設置するなど、生活環境向上に向けての工夫を行いました。

職員のチームワークといった課題に対しては、チーム会議を定例化し、その内容について寮会議で周知することにより、情報を共有し日々の支援に反映できる体制づくりを行っています。また、職員の研修(内部、外部)を積極的に取り入れ、スキルアップを図りました。

1月に本県で開催された障害支援施設部会全国大会(神奈川大会)の分科会で、7寮利用者へのチーム支援、構造化の取り組みによる自傷などの低減を図った事例を報告し、絶賛されました。

□課題

引き続き利用者の方の障害特性(行動特性)を踏まえたアセスメントに基づき、支援を行ってまいります。

ウ 4寮(成人女性寮)

□利用者の概況

強い拘りや他害傾向等の行動障害を持つ14名の方が生活されています。障害支援区分5の方が1名、区分6の方が13名です。居室・寮内や日課や個別対応等の環境調整をし、落ち着いて生活できるように支援しています。

□主な取り組み

特性理解をし、気持ちに寄り添い肯定的な支援を大切にしています。カードや現物等の提示を使い、余暇活動の自己選択支援に取り組んできました。また、特性に配慮しながら行事も全員楽しく参加できるように事前に丁寧にスケジュールの組み立てを行いました。昼食バイキング、デザートバイキングでは机を輪にしてみなの顔をみながら食事を楽しむことができました。身体拘束解除にむけて2名の方が施設時間短縮を行うことができました。健康で安心した生活を維持できるように、体調面や精神面の小さな変化や生活の中でのさまざまなリスクに対する気づきを大切に、インシデント報告としてあげて職員間で周知しています。

昨年12月の県障害福祉職員実践報告会では入所利用者と短期入所利用者への構造化した対応の実践例を報告し、絶賛を受けました。

□課題

日ごろは特性に配慮した環境で日々の生活を安心して過ごすことができますが、想定外の出来事や緊急事態（入院・災害）等のあらゆる場面でも、できる限り利用者の混乱や不安を最小限にしていくための対応や環境設定を行い、柔軟で応用的な支援ができるように努めています。

エ 8寮(成人女性寮)

□利用者の概況

現在14名の利用者が生活しています。障害状況としては、重度の自閉症及び行動障害を呈する方が中心です。また年々、身体的機能低下がみられる利用者が増えていきます。障害支援区分は全員が区分6となっています。

□主な取り組み

寮では利用者の障害（行動）特性を踏まえた支援を行っています。支援に関してはアセスメントを元に支援を計画していますが、ご本人・ご家族・後見人の要望を軸に作成しています。

生活の質の向上といった課題に対しては、寮内のダイルームで過ごす時間の長い利用者が多いので、皆さんが安全に集え、且つ楽しい雰囲気になるよう生活環境の工夫を継続して行いました。空き時間の過ごし方の一環としてダイルームで課題を行う利用者もいるのでソファで仕切りを作って集中できるようにしたり、利用者が好むビデオをつけて輪になって見えています。

職員の取り組みの一つとしては、チーム支援を活用し、一人ではなく複数人でカンファレンスを実施した結果を全員で評価し進めていくという取り組みも定着しています。又、研修を受けて身に着けた内容は職員全体に浸透するように情報交換をしています。

食事面では飲み込みが悪い方が多く、嚥下の注意がとて重要になっています。食形態の変化を伴う方もいますが摂食嚥下チームとも連携しながら食の楽しみを味わっていただけるように気をつけています。

□課題

身体拘束対象者は5名でしたが1名解除することができ4名になりました。引き続き環境面での調整及び支援方法の見直しにより早期に解除できるよう進めていきます。また、年々転倒による怪我や病気による入院が増えているため健康及び安全に過ごしていただけるような配慮が常に必要とされています。

2 生活介護・自立訓練(生活訓練)(日中一時支援事業利用者を含む)の状況

三浦しらとり園の日中活動では、利用者が安心して楽しく充実した活動が出来ることを目的に、月曜日から金曜日の日中に、生産的活動・創作的活動・機能訓練・社会生活訓練等、利用者に必要な支援を行いました。

また当園では、スムーズな日中活動を運営できるよう日中活動連絡調整会議を設けています。日中活動において安心安全を基本とした支援を行うために、日中活動で起きたインシデント（ひやり・はっと）について、日中活動担当職員と寮職員が連携し、日中活動連絡調整会議で報告・検証しています。

上半期には9名の利用者が新しく活動を開始しました。試行を通じて事前評価を丁寧に行うことで、一人ひとりに合わせた活動の提供が行えました。常に寮職員や専門職員（心理、強行担当）と連携をとり、活動の評価を行いながら楽しく安心して活動に参加していただいています。

昨年12月の県障害福祉職員実践報告会では、日中一時契約をしている自閉性の強い利用者について、寮と連携して生活場面を広げる取組みについて報告し、高い評価を受けました。

(1) 活動内容

日中活動は各利用者の特性に応じて9つのグループを編成し、午前と午後に分けて実施しました。

日中活動の内容は、手工芸・スキルトレーニング・機能訓練・歩行・余暇等が主な内容でした。

機能訓練に関しては、理学療法士の指導、助言のもと連携して取り組みました。

また、ボランティアの協力により、陶芸・革工芸・ダンス・フライングディスク活動等を定期的に行いました。

(2) 支援体制

日中活動の支援は、地域支援課活動支援班職員及び地域サービス班職員と各寮の職員で行っています。

また、支援にあたってはボランティアの協力をいただき、作品製作等の活動に取り組みました。

(3) 個別支援計画

日中活動の支援方針・活動内容等の支援計画は、生活介護及び自立訓練アセスメントに基づいて、寮担当者との協議の上、利用者個々の支援計画を作成しています。

個別支援計画の実施状況は、日中活動記録とともに、6ヶ月に1回以上モニタリング及び見直しを行いました。

(4) 作業収益金

日中活動において、生産活動及び創作的活動等により生じた作品は、バザー等で販売しています。

作品販売等によって生じた作業収益金は、参加利用者の活動状況（活動日数や生産能力）に応じ、「作業報奨金」として年2回、利用者に還元しました。

(5) グループ編成

(単位：人)

グループ名	職員	利用者			グループの特徴	活動内容
		男	女	計		
室内活動 2	3	13	6	19	環境や活動日課等に変更や周囲からの刺激に弱く、こだわりが強いなど見通しのもてる安定した日課の提供が必要な方。	構造化された作業環境や作業システムを使用した、教材課題を中心とした活動
園外歩行 1	2	7	3	9	ある程度活動や環境の変化に適応出来、手作業が可能で、多くの運動量（5キロ程度）が必要である方。	午前：晴天時～園外歩行（5キロ） 雨天時～体育館歩行・室内作業 午後：教材課題中心の活動・園内歩行等
園外歩行 2	4	8	3	11	3～4 Kmの園外歩行が可能な方。屋外では拘り等があるために、ある程度個別対応が必要な方屋内活動では構造化・個別化された環境が必要な方を含む。	午前：晴天時～園外歩行（3～4キロ） 雨天時～体育館歩行・室内活動 午後：室内活動（教材課題等）・園内歩行・余暇活動（フライングディスク等）
園外歩行 3	3	4	3	7	2～3 Kmの園外歩行が可能な方。歩行と屋内活動を小グループで参加できる方。	午前：晴天時～園外歩行（2～3キロ） 雨天時～体育館歩行・室内活動 午後：園内歩行・ストレッチ・教材課題
室内活動 1	3	5	5	10	健康や機能維持のため運動が必要であり、歩行能力はあるが介助も必要である方。また、歩行はしませんが刺激が少ない環境が必要な方。	園内（外）歩行・ストレッチ・リラクゼーション（スノーズレン）・教材課題等
フロア 1	7	12	11	22	身体機能維持のため個別対応の歩行訓練が必要な方。気分転換のため車椅子での園内散策が必要な方。	園内散策（車椅子）園内歩行・ストレッチ・足浴・リラクゼーション（スノーズレン）・教材課題等
フロア 2	3	4	4	8	静かな環境を好む方や個別ブースの利用が必要な方。身体きょういじなどのため歩行などが必要のある方。集団参加が難しく個別対応が必要な方。	教材課題・園内歩行・ストレッチ等
フロア 3	2	5	5	10	静かな環境での作業を好み、手作業を主に行うとともに運動もある程度確保する必要のある方。	陶芸・毛糸ほぐし・刺繍・はがき作り（紙すき）・ステンシルなどの作品制作・教材課題・園内歩行・ストレッチなど
機能訓練	3 + PT1	4	8	12	リハビリテーション加算対象者の中で日中活動の時間帯に主として機能訓練を実施・提供することが望ましい方。	P Tが作成した「機能訓練メニュー票」に従った内容・園内散策・教材課題

3 強度行動障害対策生活支援事業

強度行動障害の状態にある障害児者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、適切な相談・生活支援を行うとともに、関係機関や家族及び地域との連携を通して、障害児者の生活を支えることを目指しています。

(1)事業の内容

特に支援の難しい知的障害児者に対しては、強度行動障害対策生活支援事業の対象者として支援をしています。県事業対象以外に支援が必要な利用者については、三浦しらとり園独自に要綱を定め、準事業ケースとして支援プログラム等の検討を行っています。その他、個別の課題については相談という形で支援を行っています。

横須賀三浦地域の障害特性に関する知識と支援技術の向上のために、園内の研修計画に位置づけ公開講座や事例研究会を実施しています。また、他施設及び学校、関係機関等からの行動障害に関する相談に対して、専門的な支援・助言を行っています。

(2)事業対象者への支援

ア 支援対象者数の状況

(単位：人)

	対象者数				計
	児童		成人		
	男	女	男	女	
事業対象者	1	0	2	0	3
準事業対象者	0	0	3	1	4
相談ケース	0	1	2	2	5
在宅ケース	2	1	7	6	16
計	3	2	14	9	12

イ 支援の状況

(単位：人)

		4月		5月		6月		7月		8月		9月		小計														
		児童		成人		児童		成人		児童		成人																
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女															
個別支援	事業対象者										13			1	14													
	準事業対象者			6			4		7		5		6	1	7	36												
	相談ケース		1			1	3		3		1		5	11		25												
	在宅ケース	4		1	1	3	2	2	2	1	5	1	14	2	10	3	56											
	計	4	1	7	1	3	3	9	2	1	0	15	1	0	0	20	2	13	0	21	15	0	0	10	3	131		
ケース カンファレンス	事業対象者			1			2			1		2																6
	準事業対象者							2				1				1												6
	相談ケース	1	1		2		1			1	2	1		2				1	2		1							15
	在宅ケース	1		3	1	1		5	1			12		1				2	1	1		3						32
	計	2	1	4	3	1	0	8	3	0	1	14	2	2	2	0	1	2	0	3	4	1	1	3	1			59
日中活動協力						9		14				13				8				10								68

		10月		11月		12月		1月		2月		3月		小計	合計														
		児童		成人		児童		成人		児童		成人																	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女																
個別支援	事業対象者	4		17		5		2		1		1				1											33	47	
	準事業対象者				10			6				8		7		5								6	1		43	79	
	相談ケース					1		1						2										2			9	34	
	在宅ケース	1				2			3	3				2	4	3	3						2	4	1	2	6	36	92
	計	5	0	27	3	5	1	11	3	1	0	9	4	4	0	11	3	0	2	9	4	1	0	11	7		121	252	
ケース カンファレンス	事業対象者			1				4				4		2		2					1						14	20	
	準事業対象者					1				1	2			1	2						1			1	1		11	17	
	相談ケース		1		2			1	1	1	1	2		1							2	3	1	1			18	33	
	在宅ケース	1				1		1	1		2	1	2								2	1		2	1		15	47	
	計	1	1	1	3	1	0	5	3	1	1	8	5	2	1	3	2	0	1	2	3	4	3	4	3		58	117	

日中活動協力	12	17	9	15	12	14	79	147
--------	----	----	---	----	----	----	----	-----

(3) 関係機関からの相談及び助言

ア 相談件数

(単位：件)

	家族	施設	行政機関	相談支援	学校	計
利用相談	2	2	5	14	1	24
コンサルテーション	0	4	0	0	0	4

イ 相談内容

- 家庭や生活介護事業所での行動上の問題のある方を、強度行動障害対策事業対象者として支援してほしいという相談を受け、事業所での支援の状況などを確認しアドバイスをしたうえで、事業対象者としての支援が必要かどうか評価を行いました。
- その他、行動障害のある利用者について、関係機関等から相談を受け、専門的な助言や支援方針等の検討を行いました。
- 行動障害のある利用者について、関係機関等から家族のレスパイトや支援方法等の見立てをして欲しい等の相談により、利用調整を行いました。また、その評価については関係機関と共有し、在宅生活を支えるネットワーク作りを行いました。

(4) 行動障害に関する研修及び研究

ア 研修

日時	テーマ等	講師	参加者
6/8	公開基礎講座（第1部） 『自閉症の障害特性と構造化について』	支援センター風 センター長 小林倫氏	園内26名 外部32名 計 58名
6/10	公開基礎講座（第2部） 『問題行動の捉え方と支援方法』	同上	園内23名 外部37名 計 60名
9/1	平成28年度新規採用職員研修 『自閉症の特性理解と強度行動障害対策事業について』	当園強度行動障害対策事業担当	法人 新採職員 2名
10/31	公開講座 『やさしく学べる応用行動分析』	東京学芸大学教育学部 教授 小笠原恵氏	園内17名 外部51名 計 68名
11/14	公開講座 『アセスメントから始める自閉症支援』	社会福祉法人県央福祉会 逗子市心身障がい児通園事業くろーばー 施設長 宇山秀一氏	園内16名 外部29名 計 45名
12/13	公開講座 『あかし研究中!! 自閉症スペクトラム～小道モコの場合』	自閉症スペクトラムから考える会「くれよん」 小道モコ氏	園内30名 外部43名 計 73名
2/5	応用講座（中井やまゆり園との合同研修） 『不適応行動の課題と整理～冰山モデルシートの活用とアセスメント～』	自閉症生活デザインコーディネーター 自閉症教育・支援コンサルタント 水野 敦之氏	園内・外部 計 91名
3/14	平成29年度新規採用職員研修 『自閉症の特性理解と強度行動障害対策事業について』	当園強度行動障害対策事業担当	法人 新採職員 14名
5/15	見学研修 ～強度行動障害の支援の実際について見学を通して伝える～	当園強度行動障害対策事業担当	他県養護学校教諭2名
7/14 7/20 7/27	見学研修 ～強度行動障害の支援の実際について見学を通して伝える～	当園強度行動障害対策事業担当	近隣施設職員合計12名

イ 事例検討会

日時	テーマ等	アドバイザー	参加者
2/17	ストラテジーシートを活用した事例検討会	横浜国立大学 教育人間科学部 教授 渡部匡隆氏	園内20名 外部9名 計 29名
3/3	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）フォローアップ講習会 『冰山モデルに基づいた支援計画立案のプロセス』	神奈川県立中井やまゆり園 海寮長 氏家拓勇氏	園内10名 外部10名 計 20名

4 心理支援(個別面接、行動観察)の状況

相談ニーズに応じて心理の立場から利用者の生育歴、家族関係、生活状況の検討およびアセスメントを行い、利用者に対する関係者の理解を深めます。また、個々の利用者の特性に則した心理的側面からの具体的支援をともに考えます。心理面接では、普段はなかなか職員とじっくり関わることのできない入所者に対して、心理面接室という生活場面とは異なる空間で心理担当職員と一対一で関わる時間を提供し、自分だけの時間を過ごしてもらっています。さらに、SSTやセカンドステップを取り入れて、自分の気持ちや考えを他者に伝えること、他者の気持ちや考えを理解することを練習する機会を提供しています。

(1)心理支援の状況

(単位:人)

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		計														
	児童		成人		児童		成人		児童		成人																
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女															
心理面接																											
入所	6	2	1	5	2	6	5	1	5	3	2	7	4	2	7	6	2	66									
在宅				2		2		3				2				3		2									
計	6	2	1	2	5	2	2	3	6	5	1	3	5	3	2	2	7	4	2	3	7	6	2	2	83		
個別対応※																											
入所	2			4		4			4	1	1	2		3	6	4									31		
在宅	2	1	1		1	1	2	1	3	1		1	1	3	1						1	1	1			22	
計	4	1	1	0	5	1	2	1	4	3	1	0	5	2	4	1	2	0	3	6	5	1	1	0		53	
カンファレンス																											
入所		1	2		1	4		3	1	2	1		2	1		2	1		3	1	1						23
在宅																										0	
計	0	1	2	0	1	4	0	0	3	0	1	0	2	1	0	0	2	0	1	0	3	1	1	0		23	
日中活動	14		15		21		21		15		24		110														
話そう会			1				1				1		3														

	10月		11月		12月		1月		2月		3月		計												
	児童		成人		児童		成人		児童		成人														
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女													
心理面接																									
入所	6	6	2	0	3	6	2	0	6	6	2	0	5	5	2	0	5	5	2	0	5	6	2	0	76
在宅				1				1		0		1		0		1		0		1		0			7
計	6	6	2	1	3	6	2	1	6	6	2	1	5	5	2	1	5	5	2	1	5	6	2	2	83
個別対応※																									
入所	4	0		1	2	0		2	2	0		0	5	2		0	3	5		0	6	7		0	39
在宅	1			2	1	0		3	0	2	1	0	1	2		1	0		0		0	1		0	15
計	5	0	0	3	3	0	3	2	2	2	1	0	6	4	0	1	3	5	0	0	6	8	0	0	54
カンファレンス																									
入所	2	0		0	3	1		1	0	9	0		0	2	0		0	6	2		0	4	4		34
在宅						0		0		0				0			0		0			1			1
計	2	0	0	0	3	1	1	0	9	0	0	0	2	0	0	0	6	2	0	0	4	5	0	0	35
日中活動	17		17		14		18		19		19		104												
話そう会			1				1				1		3												

※個別対応には来所相談(見学)、セカンドステップ、アセスメントを含む。

(2) 継続支援の内訳

(単位:人)

性別	小学生	中学生	高校生	その他※	計
男	2	1	3	2	8
女		3	1	2	6

(3) 研修

日時	テーマ等	講師	参加者
9/1	平成28年度新規採用職員研修 「当園における心理業務について」	心理担当 阿部	法人 新採職員 計2名
1/27	平成28年度心理公開講座 「子どもの心の育ちを支える関わりとはー心理相談室 における実践例を通して考えるー」	公益財団法人 明治安田こころの健康財団 すこやか育成相談室 室長 野並 美雪氏	園内13名 外部11名 計24名
3/15	平成29年度新規採用職員研修 「当園における心理業務について」	心理担当 阿部	法人 新採職員 14名

5 理学療法の状況

当園の利用者は重度の知的障害のみならず、身体障害や加齢による機能低下などの複合的な障害を持っている方が多く見られます。今期も入院から機能低下に繋がる利用者も増え、そのため、より介護に重点を置いた支援を行いました。また、「摂食嚥下チーム」と連携を図り、食事姿勢や車椅子の調整（シーティング）についての助言を行い、身体機能のみではなく、日常生活動作への関わりも増えました。これは利用者の身体機能の低下が進行し、日常生活動作にまで及ぶようになったことを意味しています。

○ リハビリテーションマネジメント加算の状況

リハビリテーションマネジメントに従って、三浦しらとり園のリハビリテーションに関するマニュアルを作成し、この手順に従って実施しています。リハビリ加算対象者は20名で、男性8名、女性12名で、障害支援区分の平均は5.88です。半数は車いす対応者で、残りの半数は歩行や移動に軽介助又は中等度以上の介助が必要のある方です。既往に骨折・入院歴などの医療的な支援を受けている人が大半です。

(単位：リハビリテーション加算点数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	件数	160	152	171	160	172	159	158	159	128	127	160	176	1882
女	件数	234	226	261	231	251	237	256	254	241	227	238	257	2913
合計		394	378	432	391	423	396	414	413	369	354	398	433	4795

6 特定相談支援事業及び障害児相談支援事業の状況

(1) 契約者数

ア 特定相談支援事業

(単位：人)

性別	横須賀市	鎌倉市	逗子市	三浦市	葉山町	その他	契約終了	計
男	57	6	2	5	2	7	-5	74
女	31	11	1	8	1	9	-16	45
計	88	17	3	13	3	16	-21	119

イ 障害児相談支援事業

(単位：人)

性別	横須賀市	鎌倉市	逗子市	三浦市	葉山町	その他	契約終了	計
男	2	0	0	0	0	0	-1	1
女	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2	0	0	0	0	0	-1	1

(2) 計画相談の実績

ア 特定相談支援事業

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画作成	8	9	6	4	6	0	5	2	0	3	3	0	46
計画作成 (更新)	5	0	0	0	0	0	6	1	1	3	1	0	17
モニタリング	17	8	9	8	10	11	12	5	20	10	13	9	132

イ 障害児相談支援事業

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画作成	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
計画作成 (更新)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
モニタリング	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2

ウ 計画相談の状況

相談支援事業は、平成26年4月1日から指定管理協定書第63条に規定する指定管理者の自主事業として実施しています。

利用者が、その有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように、当該利用者の身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて、利用者又は障害児の保護者の選択に基づき、基本相談支援に関する業務およびサービス等利用計画の作成及びそのモニタリングに関する業務を行っています。

平成24年4月の障害者自立支援法及び児童福祉法の改正により、原則として平成27年3月末までに、すべての障害福祉サービスを利用している障害者を対象にサービス等利用計画（又は障害児支援利用計画）を作成することが必須となっており、当事業所においてもご本人（ご家族）の依頼により効率的に計画作成を行っているところです。

また、他相談支援事業所及びサービス事業所との情報交換及び連携を図るために、横須賀市支援ネットワーク連絡会や障害福祉サービス地域ネットワーク強化事業等へ参加したり、計画相談の質の向上を図ることを目的に各種研修に参加しています。

7 ボランティアの受け入れ

(単位：人)

	グループ等の名称	活動内容	延べ人数	備考
1	八八園芸会	剪定等、環境整備	75	昭和63年より活動
2	つくし会	縫製	43	昭和58年より活動
3	ふよう会	縫製	49	昭和52年より活動
4	さくら会・ふよう会	ダンスクラブ	10	
5	かきくけこ	縫製	68	平成9年より活動
6	さくらの会(縫製)	縫製	22	昭和51年より活動
7	二・三の会	縫製	60	昭和56年より活動
8	東中里紫重会	縫製	30	昭和50年より活動
9	16mm試写室	映画上映(余暇支援)	8	昭和63年より活動
10	北下浦ボランティアセンター	余暇支援等 児童課通学支援	178	
11	佐藤 美津子	ドッグセラピー	1	
12	竹村 公良	陶芸	70	平成12年より活動
13	古知屋政江	フライングディスク	27	平成5年より活動
14	逗子高校	園内喫茶	0	
15	S R F	環境整備	134	昭和38年より活動
16	N T T	しらとり祭・ふれあいコンサート	68	平成3年より活動
17	横須賀学院	環境整備	6	
18	その他	日中活動ボラ・利用者外出・利用者支援等ボラ等	223	
合 計			1,072	

8 オンブズパーソン施設訪問

実施日	オンブズパーソン	内 容
5月28日(火) 13:00~	寺井	今年度活動についての打ち合わせ 話そう会参加
6月17日(金) 09:30~	寺井	家族会参加 3寮、7寮見学 及び 7寮で利用者と昼食 7寮家族懇談会参加
7月22日(金) 10:00~	寺井	児童課利用者との個別面談 2寮で利用者と昼食
8月28日(日) 10:00	寺井	北下浦納涼ふるさと祭り中止のため、訪問はありませんでした。
9月8日(木) 13:30~	寺井	通所の活動に交流 話そう会参加
10月7日(金) 10:00~	寺井	4寮 見学 個別面談 昼食
11月18日(金) 10:00~	寺井	5寮 見学 個別面談 昼食
12月23日(金) 13:30~	寺井	児童課 クリスマス会
1月13日(金) 10:00~	寺井	6寮 見学 個別面談 昼食
2月17日(金) 10:00~	寺井	8寮 見学 個別面談 昼食

9 三浦しらとり園家族会

(1) 家族会は、以下の組織で活動しています。

名称	内容	会員数(名)	規約	会費(月額)	家族会長
三浦しらとり園家族会		128人	有	900円	鈴木堅之

(2) 平成24年5月から、家族会の開催を隔月とし、第三金曜日に開催しています。
園からは、家族会の開催の際には情報提供等を行い連携を図っています。

	家族会	開催日	出席数	備考(園行事等)
4月	定例会	4月15日	46人	新年度スタート
5月	総会	12月18日	49人	レクレーション大会
6月	定例会	12月19日	44人	
8月	定例会	2月19日	49人	
10月	定例会	10月22日	30人	セントラルホテルにて懇親会
12月	定例会	12月16日	45人	
2月	定例会	2月17日	36人	
	計		299人	

10 実習生/研修生受入れ状況

各大学、保育専門、歯科関係学校より受け入れを行っています。

(1)受け入れ件数

	学校数	実人数	実日数	延べ日数
実習	14校	39人	309日	511日
研修	1校	65人	8日	65日
計	15校	104人	317日	576日

(2)受け入れ内訳

	学校名	実習/研修 開始日	実習/研修 終了日	実人数	実質 実習/研修 日数	延べ日数
実習1	横浜リゾート&スポーツ専門学校	5月11日	5月24日	2人	14日	28日
実習2	聖ヶ丘教育福祉専門学校	6月6日	6月17日	1人	12日	12日
実習3	横浜保育専門学校	7月4日	7月15日	2人	12日	24日
実習4	東京都市大学	7月11日	7月22日	2人	12日	24日
実習5	鶴見大学短期大学部	8月1日	8月11日	2人	12日	24日
実習6	東京都市大学	8月8日	8月19日	2人	12日	24日
実習7	田園調布学園大学(福祉士)	8月8日	9月9日	1人	24日	24日
実習8	県立保健福祉大学(福祉士)	8月8日	9月9日	1人	24日	24日
実習9	鎌倉女子短期大学	8月29日	9月9日	2人	12日	24日
実習10	鎌倉女子短期大学	9月5日	9月16日	2人	12日	24日
実習11	田園調布学園大学(保育士)	9月10日	9月22日	1人	13日	13日
実習12	鎌倉女子短期大学	9月19日	9月30日	2人	12日	24日
実習13	横浜子ども専門学校	10月11日	10月22日	1人	11日	11日
実習14	蒲田保育専門学校	10月17日	10月28日	1人	11日	11日
実習15	國學院大學	11月14日	11月25日	2人	11日	22日
実習16	聖セシリア女子短期大学	1月19日	1月31日	2人	13日	26日
実習17	関東学院大学	1月30日	2月11日	2人	12日	24日
実習18	横浜保育福祉専門学校	2月6日	2月17日	2人	11日	22日
実習19	関東学院大学	2月13日	2月25日	2人	24日	48日
実習20	田園調布学園大学	2月20日	3月5日	1人	12日	12日
実習21	横浜高等専門学校	2月27日	3月10日	2人	11日	22日
実習22	鶴見大学	3月6日	3月17日	2人	11日	22日
実習23	聖ヶ丘教育福祉専門学校	3月13日	3月24日	2人	11日	22日
小計				39人	309日	511日
研修1	神奈川歯科大	7月6日		8人	1日	8日
研修2	神奈川歯科大	7月20日		8人	1日	8日
研修3	神奈川歯科大	9月7日		9人	1日	9日
研修4	神奈川歯科大	9月21日		9人	1日	9日
研修5	神奈川歯科大	11月2日		9人	1日	9日
研修6	神奈川歯科大	11月16日		8人	1日	8日
研修7	神奈川歯科大	12月7日		7人	1日	7日
研修8	神奈川歯科大	12月21日		7人	1日	7日
小計				65人	8日	65日
合計				104人	317日	576日

11 研修実績

(1)外部派遣研修実績

清和会採用職員（管理職・課長・中堅・新人等）を対象に外部研修に派遣しました。

開催日	内 容	会 場	職員 区分	人数
6月1日	支援スタッフ会（総会）	保土ヶ谷公会堂	中堅	3人
6月6日 ～7月5日	児童相談所相談業務体験研修（延べ5日）	鎌倉三浦地域 児童相談所	中堅	2人
6月8日・7月27日	神奈川県知的障害施設団体連合会 新任職員人権研修	県社会福祉会館	新人	9人
6月9日	支援スタッフ会（地区会）6月	高島屋	中堅	2人
6月11日	次世代リーダー育成研修（延べ3日）	みなと舎ゆう等	中堅	1人
6月13日	神奈川県強度行動障害対策研修	相模原南市民ホール	中堅	3人
6月14日	民間知的障害施設協同会（総会）	岩間市民プラザ	管理職 中堅	3人
6月15日	高齢者支援セミナー①	海老名市文化会館	中堅	1人
6月 15・21・28日	神奈川らくらく介護・実践講座	県立保健福祉大学	新人	2人
6月21日	横須賀市障害福祉サービス事業者等集団指導講習会	横須賀市	管理職 課長級	10人
6月23日～24日	全国知的障害関係施設長等会議	パシフィコ横浜	管理職	2人
6月25日	社会福祉士実習指導者講習会	田園調布学園大学	中堅	1人
7月5日～6日	サービス管理責任者補足研修	サンピアン川崎	寮長級	1人
7月5日～ 延べ7日間	相談支援従事者初任者研修	サンピアン川崎等	中堅	1人
7月6日	障害者事業所基本研修 「利用者の個人情報の意識を身につけていますか」	県社会福祉会館	中堅	1人
7月14日～15日	第47回関東地区知的障害福祉関係職員研究大会	ソニックシティ パレスホテル大宮	課長級 中堅	3人
7月16日	ケースマネジメントのためのアセスメント研修	明治安田こころの健康財 団 講義室	臨床 心理士	1人
7月20日～21日	中井やまゆり園強度行動障害現任研修①	中井やまゆり園	中堅	1人
7月22日～23日	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）①	横浜市技能文化会館	中堅	2人
7月28日	支援スタッフ会（地区会）7月	県社会福祉会館	中堅	2人
7月30日	自閉症療育者のためのトレーニングセミナー （公開講座）	ウィリング横浜	中堅	2人
7月30日	自閉症療育者のためのトレーニングセミナー （延べ5日）	ウィリング横浜	中堅	1人
7月30日	神奈川らくらく介護・入門講座	県立保健福祉大学	新人	1人
8月3日～4日	中井やまゆり園強度行動障害現任研修②	中井やまゆり園	中堅	1人
8月23日	岩戸養護学校夏期講座	岩戸養護学校	中堅	1人

8月24日	横須賀市主催 相談支援事業所・サービス提供事業所等勉強会	ヴェルクよこすか	中堅	2人
8月26日	ひばりセミナー「応用行動分析にもとづく記録と支援プランの立案について」	ひばりが丘学園	中堅	1人
9月1日	横須賀市主催公開講座「発達障害の理解と支援」	ヴェルクよこすか	新人 中堅	1人
9月1日	第2回湘南東、横三地区支援職員研究会地区会	湘南だいち	中堅	2人
9月2日	食物アレルギー・緊急時対応研修会	海老名市文化会館	管理栄養士	2人
9月7日～9日	第54回全国知的障害福祉関係職員研究大会	札幌コンベンション センター	中堅	2人
9月13日～	相談支援従事者現認研修（延べ3日間）	県立保健福祉大学	中堅	2人
9月14日～15日	中井やまゆり園強度行動障害現任研修③	中井やまゆり園	中堅	1人
9月30日	支援スタッフ会（地区会）9月	県社会福祉会館	中堅	2人
9月30日～ 10月1日	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）②	県総合薬事 保健センター	中堅	1人
10月1日	障害福祉サービス地域ネットワーク強化事業研修会	横須賀市生涯学習セン ター	CW 相談支援	2人
10月4日	民間知的障害施設協同会研修会	岩間市民プラザ	管理職 中堅	3人
10月12日	国際福祉機器展	東京ビックサイト	中堅	2人
10月14日	こども支援会議 サポートブック説明会	ヴェルクよこすか	ケースワ ーカー	2人
10月15日～16日	第15回行動理解・支援力パワーアップセミナー	TFT有明	心理士	1人
10月24日他4回	横須賀市障害関係施設協議会 中堅・幹部候補研修	石川県金沢市等	課長級	2人
11月2日① 1月20日②	横須賀市障害関係施設協議会 2～5年職員研修	フロムワン福祉園	中堅	3人
11月2日～3日	強度行動障害支援者養成研修（実践研修）①	横浜市技能文化会館	課長級	2人
11月6日	摂食嚥下困難をもつ人への対応（栄養士対象）	ウィリング横浜	管理栄養士	1人
11月10日～11日	県立障害福祉施設間交流研修①	七沢学園	中堅	1人
11月16日	かながわ災害福祉広域支援ネットワーク研修会	波止場会館	課長級	1人
11月16日～17日	中井やまゆり園強度行動障害現任研修④	中井やまゆり園	中堅	1人
11月17日	支援スタッフ部会11月	県社会福祉会館	中堅	2人
11月17日～18日	県立障害福祉施設間交流研修②	七沢学園	中堅	1人
11月19日～20日	社会福祉士実習指導者講習会	ウィリング横浜	中堅	1人
11月26日～27日	県立障害福祉施設間交流研修③	ひばりが丘学園	中堅	1人
12月7日他	横須賀市障害関係施設協議会 施設間交流研修	各事業所	中堅 新人	7人
12月8日	支援スタッフ会（地区会）12月	サポートセンターかいふ う	中堅	2人

12月8日	障害者の権利擁護研修	ヴェルクよこすか	課察長級	1人
12月15日～16日	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）③	小田原マロニエ	中堅	1人
12月26日	第34回神奈川県障害福祉職員実践報告会	県社会福祉会館	管理職 ～新人	11人
1月13日	神奈川らくらく介護研修入門講座	県立保健福祉大学 実践教育センター	新人	1人
1月13日	社会福祉施設等合同防犯対策講演会	横須賀市役所	課察長級	1人
1月18日～19日	中井やまゆり園強度行動障害現任研修⑤	中井やまゆり園	中堅	1人
1月23日～24日	児童相談所における職員研修①	中央児童相談所	中堅	2人
1月30日～31日	児童相談所における職員研修②	中央児童相談所	中堅	2人
1月30日～31日	障害者支援施設部会全国大会（神奈川大会）	新横浜プリンスホテル	管理職 ～新人	11人
2月2日	レジリエンスを鍛える～折れない心で働き続ける～	ヴェルクよこすか	中堅	1人
2月3日	第28回こうさい療育セミナー	弘済学園	中堅	2人
2月5日	県立保健福祉大学特別講演～ともに生きる	県立保健福祉大学	管理職 中堅	3人
2月5日	中井やまゆり園・三浦しらとり園合同研修～不適応行動の課題と整理（冰山モデルシートの活用とアセスメント）	小田原マロニエ	中堅	1人
2月9日	県社会福祉協議会施設部会研修会	ウィリング横浜	管理職	1人
2月15日	送迎車輛安全運転講習会	自動車整備振興会 教育 センター6階	課察長級	1人
2月15日～16日	中井やまゆり園強度行動障害現任研修⑥	中井やまゆり園	中堅	1人
2月17日	支援スタッフ部会2月	県社会福祉会館	課察長級	1人
2月21日～22日	強度行動障害支援者養成研修（実践研修）②	横浜市技能文化会館	課察長級	2人
2月23日	横須賀市障害とくらし支援協議会 こども支援会議 研修会	ヴェルクよこすか	ケースワ カー	2人
2月28日	横須賀市障害関係施設協議会 新人研修	シャローム浦上台	新人	4人
3月2日～3日	全国支援スタッフ委員会代表者会議	有明コンベンションホー ル	課察長級	1人
3月7日～8日	子どもの虹情報研修センターテーマ別研修 （ステップファミ リー）	子どもの虹情報センター	管理職 中堅	2人
3月10日	やまゆり研修会～自己決定支援をどう考えるか～	かながわ県民センター	中堅	1人
3月10日	支援スタッフ会（地区会）3月	ショコラボ	中堅	2人
3月17日	第3回介護施設産業展	東京ビックサイト	理学療法士	1人
3月25日～26日	PECSレベル1ワークショップ	八王子市南大沢文化会館	課察長級	1人
合 計				166人

(2)内部研修実績

清和会採用職員（管理職・課長・中堅・新人等）を対象とした基礎的な研修を中心に実施しました。

(単位：人)

開催日	内 容	会 場	職員 区分	人数
4月4日	職員研修（理事長研修）	体育館	新任 中堅等	48人
6月8日	公開講座（強行） 「自閉症の障害特性と構造化について」	体育館	全職員 家族会 関係機関	外部 32人 園内 26人 合計 58人
6月9日	ハイムリック法研修（1回目）	本館2階 エレベーター前	全職員	37人（3回合計）
6月10日	公開講座（強行） 「問題行動の捉え方・支援方法について」	体育館	全職員 家族会 関係機関	外部 37人 園内 23人 合計 60人
6月14日	夜勤リーダー・サブリーダー研修（1回目）	本館食堂	中堅等	5人
6月15日	ハイムリック研修法（2回目）	本館2階 エレベーター前	全員	—
6月16日	ハイムリック研修法（3回目）	本館2階 エレベーター前	全員	—
6月21日	夜勤リーダー・サブリーダー研修（2回目）	本館食堂	中堅等	8人
6月24日	夜勤リーダー・サブリーダー研修（3回目）	本館食堂	中堅等	5人
6月28日	E V A C C H A I R （非常用階段降下車椅子）研修	南棟2階	全職員	20人
6月30日	熱中症予防研修	会議室	全員	22人
7月8日	救急救命医療実務研修 （心配蘇生法とAED実務研修）	体育館	全員	18人
8月2日	職員研修（理事長研修）	会議室	全職員	43人
8月24日	与薬動作研修	会議室	全職員	15人
9月1日	清和会新規採用・転入職員補足研修	本館職員食堂	新任	3人
9月9日	感染症研修	会議室	全員	16人
9月16日	課長研修「ティーチングとコーチング」	会議室	課長	21人
9月30日	防犯研修	会議室	課長等	12人
10月5日	メンタルヘルス研修	会議室	全員	32人
10月18日	公開講座（心理） 「50歳からの高齢障害者への支援」	体育館	全員 関係機関	外部 39人 園内 20人 合計 59人

10月31日	公開講座（強行） 「やさしく学べる応用行動分析」	体育館	全員 関係機関	外部 51人 園内 17人 合計 68人
11月4日	食事支援研修①	本館 2階食堂	全員	59人（3回合計）
11月9日	食事支援研修②	本館 2階食堂	全員	—
11月14日	公開講座（強行） 「アセスメントから始める自閉症支援」	体育館	全員 関係機関	外部 29人 園内 16人 合計 45人
11月21日	人権委員会研修会 「当事者の気持ちになって考えよう」	会議室	全員 関係機関	外部 3人 園内 23人 合計 26人
11月22日	食事支援研修③	本館 2階食堂	全員	—
12月5日	課寮長研修「会議の進め方」	会議室	課寮長	20人
12月13日	公開講座（強行） 「あたし研究中！～小道モコの場合」	体育館	全員 関係機関	外部 43人 園内 30人 合計 73人
12月21日	職員研修（理事長研修）	会議室	全員	24人
1月26日	児童課研修（性教育）	会議室	児童課職員	12人
1月27日	公開講座（心理） 『子どもの心の育ちを支える関わりとは』	会議室	全員 関係機関	外部 11人 園内 13人 合計 24人
2月17日	強行事業事例検討会 『行動の理解と支援～ABC分析と機能分析』	会議室	全員 関係機関	外部 9人 園内 20人 合計 29人
2月22日	園内実践報告会	会議室	全職員 家族会 関係機関	外部 39人 園内 16人 合計 55人
3月3日	公開講座フォローアップ	会議室	全員 関係機関	外部 11人 園内 11人 合計 22人
3月14日～15日	新規採用職員研修	会議室	次年度 新採職員	14名
3月17日	園内人権研修	会議室	全員	家族 2人 園内 20人 合計 22人
合 計				975人

12 防災・避難訓練

実施月	訓練内容	目的
4月	火災避難集合訓練（周知）	寮活動体制時の避難
5月	火災避難集合訓練（周知）	寮活動体制時の避難
6月	夜間想定火災避難集合訓練（周知）	日中活動体制時の避難 *携帯電話での通報
	非常用階段降下車椅子の実地体験と説明	新採職員の参加を目的に実施
7月	火災避難集合訓練（周知）	寮活動体制時の避難 *災害時応援体制確認
8月	火災避難集合訓練（周知）	寮活動体制時の避難 *発災棟は直接1次避難場所へ避難 *災害時応援体制確認
9月	地震避難集合訓練（周知）	日中活動体制時の避難 *停電により電子機器、エレベーター使用不可となった場合の伝令及び避難
10月	火災避難集合訓練（周知）	寮活動体制時の避難
11月	火災避難集合訓練（周知） 消火器・放水訓練	寮活動体制時の避難 野比消防を招き、講和と訓練
12月	夜間想定火災避難集合訓練（周知）	日中活動体制時の避難 *携帯電話での通報
	非常用階段降下車椅子の実地体験と説明	職員の参加を目的に実施
1月	火災避難集合訓練（周知）	寮活動体制時の避難 *災害時応援体制確認
2月	夜間想定火災避難集合訓練（周知） 職員連絡網～連絡訓練	寮活動体制時の避難 *実践に近い夜の時間帯に実施（19：00～） 正確迅速な情報伝達
3月	地震避難集合訓練（周知）	日中活動体制時の避難

13 洗濯業務の状況

28年度の洗濯枚数は以下のとおりです。

(単位：枚)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
洗濯枚数	31,359	34,262	32,911	32,002	33,496	34,403
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
洗濯枚数	32,493	35,875	33,151	31,225	28,874	32,904

14 給食業務の状況

今年度は、以前からの行事食（季節毎の行事食やお誕生日リクエストメニュー、選択メニュー、バイキング）に加えて、毎月の「食育の日」献立、デザートバイキングを実施しました。毎月19日を「食育の日」として栄養にちなんだテーマを決め、テーマに沿った献立を提供しました。また、今年度実施したリクエストメニューアンケート（食べたい料理、好きな料理についてのアンケート）の集計結果の中で、最もリクエストの多かった「デザート」をデザートバイキングとして1～3月に実施しました。

1月には、利用者家族を対象とした試食会を開催し、27名の方にご参加いただきました。その際には、当園で提供している食事形態（おかず7種、ご飯4種、とろみ付水分や水分ゼリー4種）を全て実物でご覧いただき、当園での食事に関わる取組みについて理解していただけるよう努めました。

(1) 栄養ケア・マネジメントの状況

利用者の高齢化に伴い、栄養状態や嚥下機能の低下による様々な問題が、特に食事面において大きな課題となっています。今年度の利用者状況では、肺炎等で入院、また入退院を繰り返す中で、徐々に機能低下が見られ、退院時には、食事形態の変更の指示が出されることが多くありました。今年度は、そのような利用者に対し、摂食嚥下チームを中心としたアプローチを重点的且つ継続的に取り組みました。

摂食嚥下チームでは、主に、寮職員（生活支援員）との摂食嚥下に関わる情報共有を推進し、チームとしての取組み体制の整備やチーム活動の更なる活性化を図りました。具体的な内容としては、食事支援研修の実施、摂食嚥下スクリーニングの実施、当園の食事形態区分表の作成、ミールラウンド記録票の試行などです。特に、食事支援研修での食事介助をされる体験を通して、安全かつ食べやすい食事介助について見直す良い機会となったと考えられます。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	件数	50人	50人	50人	50人	51人	52人	54人	55人	55人	55人	55人	55人
女	件数	39人	39人	39人	39人	40人	40人	46人	46人	46人	44人	44人	42人
合計		89人	89人	89人	89人	91人	92人	100人	101人	101人	99人	99人	97人

(2) 食事の形態別人数

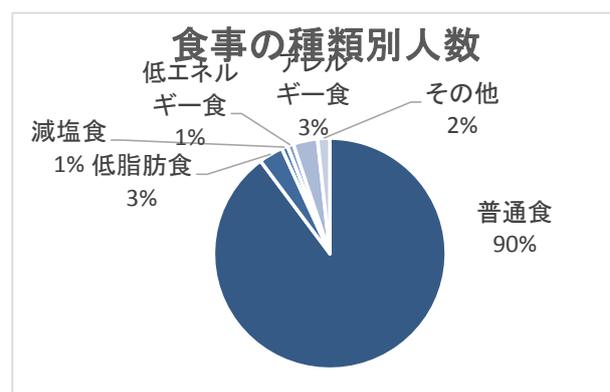
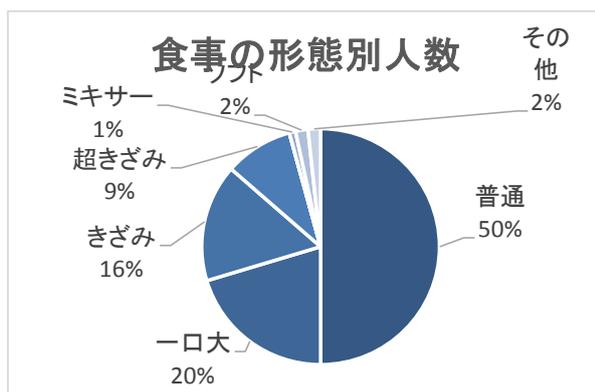
区分	普通	一口大	きざみ	超きざみ	超きざみソフト	ミキサー	ソフト	その他	合計
人数	59人	24人	19人	11人	0人	1人	2人	2人	118人
割合	50%	20%	16%	9%	0%	1%	2%	2%	100%

※その他は、経腸栄養剤使用利用者

(3) 食事の種類別人数

区分	普通食	低脂肪食	減塩食	糖尿病食	低エネルギー食	アレルギー食	その他	合計
人数	106人	4人	1人	0人	1人	4人	2人	118人
割合	90%	3%	1%	0%	1%	3%	2%	100%

※その他は、経腸栄養剤使用利用者



15 医療の状況

(1)利用者検診状況

内 容	実施年月日	人数
内科検診	4～6月	108
歯科検診	随時	138
胸部レントゲン	5月～9月、1寮ずつ実施	87
眼科検診	7/7	100
尿検診	5～7月	102
耳鼻科検診	10月	105
心電図	9/7	81
インフルエンザ	11月・12月、2回実施	272
検便	6～7月	82
乳がん検診	8/9 8/16	39

(2)入退院の状況

	氏名	科別	病 名	入院施設	入院月日	退院月日	転帰
1	I.Yさん男性	内科	肺炎	湘南病院	4月4日	4月9日	軽快
2	T.Yさん男性	内科	肺炎、気管支喘息	湘南病院	5月22日	5月25日	軽快
3	Y.Nさん男性	内科	敗血症	湘南病院	5月26日	6月6日	軽快
4	T.Yさん男性	内科	肺炎	湘南病院	5月28日	6月6日	軽快
5	S.Hさん男性	外科	左肩腫瘍	湘南病院	6月15日	6月23日	軽快
6	F.Nさん女性	耳鼻科	嚥下造影検査	湘南病院	6月22日	6月23日	終了
7	Y.Mさん女性	内科	肺炎、喘息	湘南病院	6月24日	7月4日	軽快
8	O.Yさん男性	内科	肺炎	湘南病院	6月27日	7月4日	軽快
9	W.Iさん男性	内科	胃カメラ・注腸検査	湘南病院	6月30日	7月1日	軽快
10	K.Sさん男性	外科	イレウス	湘南病院	7月17日	8月2日	軽快
11	S.Yさん女性	内科	肺炎	湘南病院	7月19日	8月2日	軽快
12	Y.Mさん女性	内科	肺炎	湘南病院	7月30日	8月15日	軽快
13	S.Hさん男性	外科	左肩腫瘍	湘南病院	8月3日	8月9日	軽快
14	S.Yさん女性	内科	肺炎	湘南病院	8月6日	8月23日	軽快
15	I.Yさん男性	内科	肺炎	湘南病院	8月13日	8月23日	軽快
16	M.Kさん女性	整形外科	左大腿転子部骨折	横須賀共済	8月8日	8月22日	軽快
17	Y.Mさん女性	内科	気管支肺炎	湘南病院	8月20日	8月31日	軽快
18	I.Yさん男性	内科	肺炎	湘南病院	9月5日	10月5日	軽快
19	O.Jさん男性	内科	発熱	湘南病院	9月14日	9月21日	軽快
20	S.Hさん男性	外科	肺炎	湘南病院	9月29日	10月5日	軽快
21	YMさん女性	内	肺炎	湘南病院	10月8日	10月24日	軽快
22	TRさん男性	内	肺炎	湘南病院	10月17日	10月24日	軽快
23	MTさん男性	内	肺炎	湘南病院	11月4日	11月8日	軽快
24	YMさん女性	内	肺炎	湘南病院	11月18日	11月29日	軽快
25	SKさん男性	内	急性心筋梗塞・感染症	湘南病院	12月5日	1月30日	軽快
26	HHさん男性	内	てんかん重責発作	湘南病院	12月15日	1月17日	軽快
27	YMさん女性	内	肺炎	湘南病院	12月16日	2月1日	死亡
28	IYさん男性	内	肺炎	湘南病院	12月20日	1月12日	軽快
29	KAさん男性	内	急性腸炎	湘南病院	1月2日	1月12日	軽快
30	IKさん女性	小	てんかん発作	子供医療C	1月19日	1月21日	軽快
31	SKさん女性	内	血球貪食症候群	湘南病院	1月25日	1月27日	転院
32	STさん男性	外	右膝ガングリオン手術	湘南病院	2月2日	2月4日	軽快
33	TYさん男性	外	陥入爪手術	湘南病院	3月23日	3月24日	軽快

(3)診療所利用状況(単位:件)

科	平成				28年度				受診状況				総件数				8835																										
	内科		精神科		外科		整形外科		小児科		皮膚科		耳鼻科		眼科			泌尿器科		脳外科		婦人科		小計		月合計		歯科		総合計		月総合計											
	本院	他院	本院	他院	本院	他院	本院	他院	本院	他院	本院	他院	本院	他院	本院	他院		本院	他院	本院	他院	本院	他院	本院	他院	本院	他院	本院	他院	本院	他院	本院	他院										
4月	101	3	1	376	1	3	23	0	0	17	0	9	0	1	0	1	6	34	1	0	0	16	1	0	5	0	0	0	0	0	1	0	2	53	28	22	603	127	0	680	28	22	730
5月	64	7	0	306	4	2	29	1	1	7	9	2	14	0	0	1	1	0	6	0	0	1	1	0	6	0	0	0	0	0	0	423	28	20	471	157	0	580	28	21	629		
6月	91	22	0	285	6	4	28	4	1	26	19	7	0	1	4	1	4	21	1	0	1	1	0	8	0	0	0	0	1	0	0	463	63	22	538	141	0	594	63	22	679		
7月	100	24	1	338	4	3	31	2	0	1	7	6	0	0	3	2	6	9	2	0	100	5	1	0	5	0	0	0	0	0	0	581	51	21	653	138	0	719	51	21	791		
8月	111	15	0	337	4	3	61	6	0	35	6	7	0	0	1	5	1	19	1	0	1	0	2	0	7	0	0	0	0	0	569	40	22	631	140	0	709	40	26	775			
9月	168	12	2	315	5	8	48	0	0	9	1	5	0	1	4	0	2	15	0	0	0	2	3	0	5	0	0	0	0	0	555	28	28	611	167	0	722	28	29	779			
10月	78	9	0	359	5	4	24	0	0	16	3	4	0	0	1	11	5	135	1	0	0	13	3	0	6	0	0	0	0	0	623	42	20	685	148	0	771	42	20	833			
11月	96	15	4	343	5	4	45	3	0	4	2	5	0	1	3	3	0	41	1	0	0	1	2	0	10	0	0	0	0	0	533	38	27	598	138	0	671	38	27	736			
12月	114	10	3	402	3	3	56	3	1	18	1	2	4	0	2	3	0	36	2	0	0	1	1	0	4	0	0	0	0	0	635	24	18	677	111	0	746	24	18	788			
1月	98	6	2	295	3	4	54	2	0	9	0	2	0	1	3	0	6	7	1	0	0	2	4	0	4	0	0	0	0	463	19	22	504	128	0	591	19	23	633				
2月	98	2	1	346	4	5	54	1	0	18	0	6	0	2	3	0	0	15	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	532	12	15	559	142	0	674	12	16	702			
3月	69	2	0	375	1	4	78	4	1	18	1	3	0	1	6	1	13	24	0	0	0	1	0	7	0	0	0	0	0	0	565	18	29	612	148	0	713	18	29	760			
病院別計	1188	127	14	4077	45	47	531	26	4	172	47	63	4	9	37	36	14	73	370	10	0	102	44	19	0	69	0	0	0	1	5	6485	391	266	1685	0	8	8170	391	274			
科別合計	1329		4169		561		282		50		123		380		165		69		1		13		7142		1693		8835																

(4)診療所としての取り組み

ア 漢方薬のセットについて

7月に薬袋が破けたインシデントの改善策として、漢方薬のセットを別袋にする試行を2週間試行しました。その後各セクションと意見交換を行い、寮職員からは従来の方法が良いと評価があり、現行通り他の薬と一緒にセットすることとなりました。

イ 肺炎球菌ワクチン接種について

今年度は肺炎球菌ワクチンを37名の利用者に接種しました。（8月25日に32名、8月26日に5名）

ウ 常備薬について

9月1日に、各寮の常備薬の期限・定数の確認を行いました。引き続き寮と連携し不備のないよう徹底していきます。

エ 溶連菌感染について

9月初旬に2寮の利用者から溶連菌感染症が発症しました。感染拡大を防止するため資料を全園に配布するとともに、体温計の貸出しを行い、他利用者へ感染に至らず終息しました。

オ 精神科医師による寮内回診について

11月初旬から、精神科医師による寮内回診を開始しました。利用者の寮内生活と行動を観察し、寮の職員からの聞き取りも行っており、医療と現場の連携強化に繋がっています。

カ AG-1の購入について

平成29年1月27日に、インフルエンザウィルスの簡易検査器具AG-1を購入し、診療所処置室に設置しました。使用手順を作成し、平日・土日祝祭日、夜間帯などいかなる場合でもAG-1が使用できるようにしました。今年度のインフルエンザの感染拡大を防ぐことができ、その効果を実証しました。